

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術			聴講	可	
授業科目名	看護学概論			科目履修	可	
科目番号	N11001	クラス番号	N1			
授業形式	講義	必修選択区分	必修			
開講時期	1年次 前期semester	単 位	2単位 30時間			
科目責任者	吉富美佐江	そ の 他				
担当教員	小川妙子、機能看護学教員全員、看護技術学教員					
授業の概要	講義、参加観察実習、演習を通し、看護・人間・健康・環境という看護学の基本概念を学ぶことにより、抽象的な概念と具体的な現象の連関を理解する。また、看護職・看護学の歴史的発展などを学習し、学際的学問としての看護学の特徴及び看護職と看護学との関係を理解する。さらに、看護の目標・対象、看護職の役割と機能を学習する。					
学 科 目 的 標	目的：看護学の成り立ちと特徴を学習することを通し、看護学の基盤となる知識を習得する。 目標：1. 看護職・看護学の歴史的発展を学習することにより、看護学の基本概念である看護、人間、健康、環境について理解する。 2. 看護の目標、対象、役割と機能を理解する。 3. 看護学及びその実践の基礎となる理論の学習を通し、看護学の特徴を理解する。					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	授業の目的・目標及び学習方法の理解 －本学のカリキュラムにおける看護学概論の位置づけ	講義	毎回、学習課題を提示	小川	
	2	大学で学ぶということ －大学での学び方、スタディスキル	演習		岩波	
	3	看護における専門用語及び定義	講義		吉富	
	4	看護の起源 －太古の昔からある看護の機能と看護職者の成立 看護職の起源(1) －日本における起源			岩波	
	5	看護職の起源(2) －欧米における起源とナイチンゲールの業績			岩波	
	6	看護職の役割と機能(1) －看護の目標と看護職の専門性			吉富	
	7	参加観察実習オリエンテーション			吉富 加藤	
	8	参加観察実習：看護学の基本概念に関連した現象を含む相互行為場面を参加観察する			実習	グループ 担当教員
	9	演習：参加観察した結果を統合し、概念間の関連を理解する	演習		吉富	
	12	看護職の役割と機能(2) －看護職の活躍の場と看護実践の法的根拠	講義			
	13	看護学の特徴(1) 看護実践を支える知識 －看護理論：ヘンダーソン看護理論とキング看護理論				岩波
	14	看護学の特徴(2) 看護実践の方法論 －問題解決的アプローチ(看護過程)				吉富
	15	看護学の特徴(3) －看護学の起源 －看護学の展望 看護学概論総括			吉富	
	16	筆記試験				
	評価方法	参加観察実習・演習(40%)、筆記試験(60%)				
教科書	日本看護協会編：新版 看護者の基本的責務一定義・概念／基本法／倫理，日本看護協会出版会，2006. ヴァージニア・ヘンダーソン著；湯楨ます他訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，2006. A. W. コーンハウザー著；山口栄一訳：大学で勉強する方法，玉川大学出版会，2009. 山形大学基盤教育院編：スタートアップセミナー学習マニュアルなせば成る！，山形大学出版会，2010.					
参考文献等	ジョセフィンA. ドラン著；小野泰博他訳：看護・医療の歴史，誠信書房，1978. フローレンス・ナイチンゲール著；薄井担子他訳：看護覚え書 改訳第7版，現代社，2011. アイモジン・M. キング著；杉森みどり訳：キング看護理論，医学書院，1985.					
備考	特になし					

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術		聴講	可		
授業科目名	看護技術学概論		科目履修	可		
科目番号	N11002	クラス番号	N1			
授業形式	講義	必修選択区分	必修			
開講時期	1年次 後期セメスター	単 位	2単位 30時間			
科目責任者	肥後すみ子	そ の 他				
担当教員	看護技術学全教員、機能看護学教員					
授業の概要	技術という概念及び看護職の実践を支える看護技術の特徴とは何かを学習する。また、実際の看護技術提供場面を参加観察する実習を通し、様々な看護技術の特徴とそれらが複合される実際を学習する。さらに、看護技術と看護過程・看護理論の関係を学習し、看護技術の修得が、より効果的な看護を展開するためにいかに重要かを理解する。					
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：看護技術の特徴とそれを支える要素を学習し、看護技術を修得する意義を認める。 目標：1. 看護技術の定義を明らかにする。 2. 看護実践を構成する看護技術の特徴を理解する。 3. 看護技術が、看護過程を通して複合されて提供される実際を理解する。 4. 看護技術の修得がより効果的な看護を提供するためにいかに重要かを理解する。					
授業の内容 と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	技術とは、看護技術の定義	講義	演習後にレポート提出	肥後	
	2	参加観察実習オリエンテーション				
	3・4	参加観察実習	実習		肥後、岩波、北 爪、土井、高橋、 保坂、田淵、服 部、大川、佐藤、 北島、山下	
	5	参加観察実習後の演習	演習			
	6	演習後のグループ発表				
	7	看護技術学の定義と構造 看護技術の特徴	講義		肥後	
	8	看護技術の構成要素	講義		肥後	
	9	看護技術に共通する基本技術① ボディメカニクス	講義		肥後	
	10・11	看護技術に共通する基本技術① ボディメカニクス	演習		演習後、自己評 価表提出	肥後、土井、大 川、高橋、保坂、 田淵、服部、佐 藤、北島、山下
	12	看護技術に共通する基本技術② 感染予防	講義		肥後	
	13・14	看護技術に共通する基本技術② 感染予防	演習		演習後、自己評 価表提出	肥後、土井、大 川、高橋、保坂、 田淵、服部、佐 藤、北島、山下
	15	看護技術学の課題と展望 ・看護技術に関連する倫理的配慮 ・看護技術の発展と課題	講義		肥後	
	評価方法	試験(50%)、レポート(20%)、出席(30%)、授業に対する積極性等を総合的に判断する。				
	教科書	なし				
参考書 参考文献等	別途提示					
備考	特になし					

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術			聴講	否	
授業科目名	看護技術学各論Ⅰ（アセスメント技術）			科目履修	否	
科目番号	N11003	クラス番号	N1			
授業形式	演習	必修選択区分	必修			
開講時期	2年次 前期セメスター	単 位	2単位 60時間			
科目責任者	肥後すみ子	そ の 他				
担当教員	看護技術学全教員、機能看護学教員					
授業の概要	この授業においては、呼吸、循環、排泄、運動機能などの観察に必要な技術及びこれを活用したフィジカルアセスメントの実際を講義、演習を通して学習する。また、心理的側面の観察と査定、社会的側面の観察と査定についても学習し、看護実践に必要な多様なアセスメント技術とそれらにより獲得した情報を統合する意義を理解する。					
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：対象の健康状態を把握するための基礎的な知識・技術を学習する。 目標：1. アセスメント技術の学術的な原理原則を記述する。 2. アセスメント技術を学術的な原理原則に基づいて実施する。 3. アセスメント技術提供の実際を理解する。 4. 1から3を通して、対象の持つ問題を明確化するためにアセスメント技術を習得する意義を見出す。					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	学科目ガイダンス：アセスメント技術 観察の技術と情報収集の実際	講義		肥後	
	2	測定の技術と情報収集の実際（身体計測）			土井	
	3	測定の技術と情報収集の実際（バイタルサイン）	講義		土井	
	4・5	測定の技術と情報収集の実際 (バイタルサイン)	演習	演習後、自己評価 提出	土井、大川、佐藤、肥後、 高橋、保坂、田淵、服部、 山下、北島	
	6	内的環境のアセスメント（呼吸機能）	講義		大川	
	7	内的環境のアセスメント（循環機能）			肥後	
	8・9	内的環境のアセスメント（呼吸・循環機能）	演習	演習後、自己評価 提出	肥後、土井、大川、佐藤、 高橋、保坂、田淵、服部、 山下、北島	
	10	内的環境のアセスメント（運動機能）	講義		土井	
	11	内的環境のアセスメント（知覚機能）			大川	
	12・13	内的環境のアセスメント（知覚・運動機能）	演習	演習後、自己評価 提出	土井、大川、佐藤、 肥後、高橋、保坂、田淵、 服部、山下、北島	
	14	内的環境のアセスメント（外皮・免疫機能）	講義		大川	
	15	内的環境のアセスメント（消化吸収機能）	講義		大川	
	16	内的環境のアセスメント（消化吸収機能）	演習	演習後、自己評価 提出	大川、土井、佐藤、肥後、 山下、高橋、保坂、田淵、 服部、北島	
	17	内的環境アセスメント（心理的側面）	講義		肥後	
	18	環境と安全に関するアセスメント			大川	
	19	参加観察実習オリエンテーション			肥後	
	20・21	参加観察実習	実習	実習後、レポート 提出	肥後、岩波、北爪、土井、 大川、佐藤、高橋、保坂、 田淵、服部、北島	
	22	検体採取の技術と情報収集①	講義		佐藤（肥後）	
	23	検体採取の技術と情報収集②			土井	
	24・25	採血の技術	演習	演習後、自己評価 提出	土井、佐藤、肥後、大川、 高橋、保坂、田淵、服部、 山下、北島	
	26	実技試験	演習	試験範囲の提示を 受けたら自己学習 を行う	大川、土井、佐藤、肥後、 山下、高橋、保坂、田淵、 服部、北島	
	27	包括的アセスメントⅠ（身体の清潔）	講義		土井	
	28	包括的アセスメントⅡ（運動と休息）			土井	
	29	包括的アセスメントⅢ（栄養と代謝）			土井	
	30	包括的アセスメントⅣ（排泄・性と生殖）			大川	
	評価方法	筆記試験(50%)・実技試験(30%)・レポート(20%)等により総合的に評価する。 ※試験日時は別途指定する。				
	教科書	横山美樹他編：ヘルスアセスメント，ヌーヴェルヒロカワ，2005.				
	参考書 参考文献等	授業において提示する。				
	備 考	本科目は看護技術学各論Ⅱ，Ⅲ，Ⅴ，Ⅵに関連する内容である。そのため以後に学習する看護技術学に活かせるように意識して学習してほしい。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術		聴講	否	
授業科目名	看護技術学各論Ⅱ（生活行動支援技術・生活機能維持促進技術）		科目履修	否	
科目番号	N11004	クラス番号	N1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 前期セメスター	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	肥後すみ子	そ の 他			
担当教員	看護技術学全教員、機能看護学教員				
授業の概要	生活環境を整え、対象の持つ自然治癒力を高めるための技術、身体の清潔を保つための技術、食事を摂取し、栄養状態を保つための技術、排泄に関する技術等、対象の日常生活行動における不足部分を補う技術に関して、その技術を支える理論的知識と方法論的知識を学習する。また、運動・知覚・循環・呼吸・排泄などの日常生活に必要な様々な機能を維持・促進するための技術に関して、その技術を支える理論的知識と方法論的知識を学習する。				
学科目的 学科目標	<p>目的：対象の安全・安楽な生活の支援に必要な基礎的看護技術とその技術を支える理論的知識と方法論的知識を学習する。</p> <p>目標：1.生活行動支援技術・生活機能維持促進技術の学術的な原理原則を記述する。 2.生活行動支援技術を学術的な原理原則に基づいて実施する。 3.生活機能維持促進技術を学術的な原理原則に基づいて実施する。 4.生活行動支援技術・生活機能維持促進技術が提供される実際を理解する。 5.1から4を通して、対象の安全・安楽な生活を支援するために生活行動支援技術、生活機能維持促進技術を習得する意義を見いだす。</p>				
	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	学科目ガイダンス	講義		肥後
	2	生活空間の移動を支援する技術	講義	事後：演習振り返り	保坂
	3	生活空間の移動を支援する技術	演習		保坂、高橋、佐藤、肥後、土井、大川、田淵、服部、山下、北島、
	4	生活空間の移動を支援する技術	講義		高橋
	5・6	住生活を支援する技術 (ベッドメイキング) 生活空間の移動を支援する技術	演習	・看護技術学概論11・12回： ボディメカニクス、各論Ⅰの18回：環境と安全に関するアセスメント、各論Ⅱの4回：住生活を支援する技術を復習すること、 ・演習の振り返り用紙の提出	高橋、保坂、佐藤、肥後、土井、大川、田淵、服部、山下、北島、
	7	住生活を支援する技術	講義		高橋
	8	住生活を支援する技術 (シーツ交換・環境整備)	演習		高橋、保坂、佐藤、肥後、土井、大川、田淵、服部、山下、北島、
	9	衣生活を支援する技術	講義		高橋
	10	衣生活を支援する技術 (和式寝衣の交換)	演習		高橋、保坂、佐藤、肥後、土井、大川、田淵、服部、山下、北島、
	11	参加観察実習オリエンテーション	講義		肥後
	12	清潔行動を支援する技術（総論）	講義		肥後
	13	清潔行動を支援する技術（各論①）	講義	事前：全身清拭に関して 事後：レポート提出	肥後
	14・15	清潔行動を支援する技術（全身清拭）	演習		保坂、高橋、佐藤、肥後、土井、大川、田淵、服部、山下、北島
	16・17	参加観察実習	実習	実習後、レポート提出	岩波、北爪、肥後、大川、土井、佐藤、山下、高橋、保坂、田淵、服部、北島
	18	清潔行動を支援する技術（足浴）	演習	事前：足浴について 事後：レポート提出	保坂、肥後、大川、土井、佐藤、山下、高橋、田淵、服部、北島
	19	実技試験	演習	事前に試験範囲を提示する。	肥後、大川、土井、佐藤、山下、高橋、保坂、田淵、服部、北島
	20	清潔行動を支援する技術（各論②）	講義	事後：演習振り返り	保坂
	21・22	清潔行動を支援する技術（洗髪）	演習		保坂、肥後、土井大川、佐藤、高橋、田淵、服部、山下、北島、
	23	清潔行動を支援する技術（口腔ケア）	演習	・各論Ⅱ第20回：清潔行動を支援する技術（各論②）の復習 ・演習の振り返り用紙の提出	高橋、保坂、肥後、土井大川、佐藤、田淵、服部、山下、北島、
	24	食行動を支援する技術	講義	・各論Ⅰ第29回：包括的アセスメントⅢ(代謝と栄養に関するアセスメント)の復習	高橋
	25	食行動を支援する技術（食事介助）	演習	・演習の振り返り用紙の提出	高橋、土井、大川、佐藤、肥後、保坂、田淵、服部、山下、北島
	26	排泄行動を支援する技術（床上排泄）	講義	・各論Ⅰ第30回：包括的アセスメントⅣ(排泄に関するアセスメント)の復習	高橋
	27	排泄行動を支援する技術（床上排泄）	演習	・演習の振り返り用紙の提出	高橋、土井、大川、佐藤、肥後、保坂、田淵、服部、山下、北島
	28	清潔行動を支援する技術（陰部清拭）	演習	事前：陰部洗浄について 事後：レポート提出	保坂、高橋、土井、大川、佐藤、肥後、田淵、服部、山下、北島
	29	生命を助ける技術（一次救命救急、AED）	講義		保坂
	30	生命を助ける技術（一次救命救急、AED）	演習	事後：レポート提出	保坂、肥後、土井大川、佐藤、高橋、田淵、服部、山下、北島
評価方法	参加観察実習における行動目標の達成状況20%、実技試験20%、筆記試験60%				
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学〔3〕」医学書院				
参考文献等	深井喜代子監修：「ケア技術のエビデンス」へるす出版				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質・看護技術		聴講	否	
授業科目名	看護技術学各論Ⅲ（治療過程支援技術、症状緩和技術）		科目履修	否	
科目番号	N11005	クラス番号	N1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 前期セメスター		単位	2単位 60時間	
科目責任者	山下暢子		その他		
担当教員	山下、田淵、服部、肥後、北爪、土井、高橋、保坂、大川、佐藤、北島				
授業の概要	看護職者は、対象の持つさまざまな健康上の問題をより効果的に解決・回避するために本来ならば医師が行う治療上必要な行動を代行し、手術や検査などの治療を対象が円滑に受けられるようにする。また、対象の安楽を阻害する疼痛、発熱、呼吸困難、排泄障害、見当識障害などさまざまな症状を緩和するための技術を駆使し、常に対象の安全安楽に配慮する。この授業においては、これらの技術の実際とこれを支える理論的知識と方法論的知識を学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：対象の円滑な治療受け入れの支援に必要な基礎的看護技術とその技術を支える方法論的知識と理論的知識を学習する。 目標：1. 治療行動代行技術、症状緩和技術の原理原則を記述する。 2. 治療行動代行技術を原理原則に基づいて実施する。 3. 症状緩和技術を原理原則に基づいて実施する。 4. 治療行動代行技術、症状緩和技術が提供される実際を理解する。 5. 1から4を通して、対象の持つさまざまな健康上の問題を効果的に解決・回避するために治療行動代行技術、症状緩和技術を習得する意義を見いだす。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1	学科目ガイダンス	講義	適宜、授業中に学習課題を提示する。それに応じ、学習成果を提出	山下
	2	薬物療法の過程を支援する技術(総論)	講義		山下
	3	薬物療法の過程を支援する技術(注射)	講義		山下
	4	薬物療法の過程を支援する技術(筋肉内注射)	演習		山下、田淵、服部、肥後、土井、高橋、保坂、大川、佐藤、北島
	5	薬物療法の過程を支援する技術(注射)	講義		山下
	6	薬物療法の過程を支援する技術(点滴静脈内注射)	演習		山下、田淵、服部、肥後、土井、高橋、保坂、大川、佐藤、北島
	7	呼吸器症状(呼吸困難)を緩和する技術	講義		田淵
	8	呼吸器症状(呼吸困難)を緩和する技術	演習		田淵、服部、山下、土井、高橋、保坂、大川、佐藤、北島
	9	参加観察実習オリエンテーション	講義		山下
	10,11	参加観察実習	実習	実習後、レポートを記載し提出	北爪、土井、高橋、保坂、田淵、服部、大川、佐藤、肥後、山下
	12	酸素療法の過程を支援する技術	講義	適宜、授業中に学習課題を提示する。それに応じ、学習成果を提出	服部
	13	酸素療法の過程を支援する技術	演習		服部、田淵、山下、土井、高橋、保坂、大川、佐藤、北島
	14	栄養療法の過程を支援する技術	講義		田淵
	15	栄養療法の過程を支援する技術	演習		田淵、服部、山下、土井、高橋、保坂、大川、佐藤、北島
	16	排泄機能の症状(便秘)を緩和する技術	講義		田淵
	17	排泄機能の症状(便秘)を緩和する技術	演習		田淵、山下、服部、土井、高橋、保坂、大川、佐藤、北島
	18	排泄機能の症状(排尿障害)を緩和する技術	講義		服部
	19	排泄機能の症状(排尿障害)を緩和する技術	演習		服部、田淵、山下、土井、高橋、保坂、大川、佐藤、北島
	20,21	手術療法の過程を支援する技術	講義		山下
	22	手術療法の過程を支援する技術	演習		山下、服部、田淵、高橋、保坂、佐藤、北島
	23	症状緩和の基礎技術	講義 演習	田淵	
	24	症状緩和の応用技術①「発熱」の緩和技術	講義	田淵、山下、服部、高橋、保坂、佐藤、北島	
	25	実技試験		田淵	
	26	症状緩和の応用技術②「出血」の緩和技術	講義	山下、田淵、服部、肥後、土井、高橋、保坂、大川、佐藤、北島	
	27	症状緩和の応用技術③「疼痛」の緩和技術	講義	服部	
	28	症状緩和の応用技術④「発疹・褥瘡」の緩和技術	講義	服部	
	29	症状緩和の応用技術⑤「不眠」の緩和技術	講義	田淵	
	30	症状緩和の応用技術⑤「易感染」の緩和技術	講義	田淵	
	評価方法	筆記試験 60%, 実技試験 20%, 参加観察実習 20%			
教科書	藤崎郁,任和子編:「系統看護学講座専門分野Ⅰ基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ第15版,医学書院,2009.				
参考文献等	特になし				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否
授業科目名	看護技術学各論Ⅳ（心理的支援技術・教育的支援技術）			科目履修	否
科目番号	N11006	クラス番号	N1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 後期semester		単位	2単位 60時間	
科目責任者	山下暢子	その他			
担当教員	酒井、山下、服部、保坂、高橋、中西、肥後、岩波、北爪、土井、田淵、大川、佐藤、北島				
授業の概要	看護職者は、対象が自ら問題を克服するために必要な心理的・教育的支援を行っている。この授業を通して、これらの支援に必要な基礎的技術とこれを支える理論的知識と方法論的知識を学習する。また、その過程を通して対象自らが主体的に自己の健康上の問題を克服できるように支援する意義を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：対象が自ら問題を克服するために必要な心理・教育的支援のための看護技術とその技術を支える理論的知識と方法論的知識を学習する。</p> <p>目標： 1. クライエントに心理的な支援を行うために活用できる技術を学術的な原理原則に基づいて実施する。</p> <p>2. クライエントに教育的な支援を行うために必要な技術を原理原則に基づいて実施する。</p> <p>3. 看護実践において心理的支援技術と教育的支援技術を活用する過程を理解する。</p> <p>4. 1. から 3. を通して、対象自らが主体的に自己の健康上の問題を克服できるように支援するために心理的支援技術と教育的支援技術を習得する意義を見出す。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1, 2	学科目ガイダンス 心理的支援技術の基礎知識	講義		山下 酒井
	3, 4	専門職的援助関係成立に向けたコミュニケーション技法	講義 演習	演習終了毎に、 演習の成果をまとめ提出	酒井
	5, 6	心理的支援技術①②			
	7	参加観察実習オリエンテーション	講義		山下
	8, 9	参加観察実習	実習	実習後、レポートを記載し、提出	岩波、北爪、土井、高橋、田淵、服部、大川、佐藤、北島、肥後、山下
	10	リラクゼーション	演習		保坂
	11-14	心理的支援技術③④⑤⑥	講義 演習	演習終了毎に、 演習の成果をまとめ提出	酒井、高橋
	15	教育的支援技術の基礎知識	講義	すべての教育方法演習終了後、 個人レポート、 グループレポートを記載し、提出	山下
	16	教育的支援技術	講義		服部
	17	教育的支援技術演習①	演習		土井、高橋、保坂、田淵、服部、大川、佐藤、北島、肥後、山下
	18	教育的支援技術	講義		服部
	19	教育的支援技術演習②	演習		土井、高橋、保坂、田淵、服部、大川、佐藤、北島、肥後、山下
	20	教育的支援技術	講義		服部
	21	教育的支援技術演習③	演習		土井、高橋、保坂、田淵、服部、大川、佐藤、北島、肥後、山下
	22, 23	模擬授業	演習		土井、高橋、保坂、田淵、服部、大川、佐藤、北島、肥後、山下
	24	教育的支援技術	講義		服部
	25	教育方法演習（統合）	演習		土井、高橋、保坂、田淵、服部、大川、佐藤、北島、肥後、山下
		まとめ	講義		山下
	26 - 30	心理的支援技術・教育的支援技術の統合	講義	講義終了後、レポートを記載し、提出	中西
評価方法	心理的支援技術 30%, 教育的支援技術 20%, 心理的・教育的支援技術の統合 20%, 参加観察実習 20%				
教科書	特になし				
参考文献等	藤岡完治：看護教員のための授業設計ワークブック，医学書院，1997. 飯田澄美子：ケアの質を高める看護カウンセリング，医歯薬出版株式会社，1997. 宗像恒次：最新 行動科学からみた健康と病気，メジカルフレンド社，2009.				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能		聴講	否	
授業科目名	看護技術学各論Ⅴ（看護過程と看護理論）		科目履修	否	
科目番号	N11007	クラス番号	N1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 後期semester	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	山下暢子	そ の 他			
担当教員	山下、田渕、高橋、大川、肥後、岩波、北爪、土井、保坂、服部、佐藤、北島				
授業の概要	看護技術学各論において学習してきたさまざまな技術は、対象の個別性にあわせて正確に適用することによりはじめて、健康上の問題解決・回避あるいは健康状態の増進に結びつく。これらの技術提供を支える方法論が看護過程であり、看護職者は看護過程の展開を通して、対象の潜在的・顕在的な健康上の問題の解決と問題の回避、健康増進を目指す。また、方法論である看護過程は、看護理論に基づき展開する必要がある。この授業においては、看護過程展開のために必要な知識・技術・態度及び看護技術と看護過程・看護理論の関係を学習し、その具体的方法を統合的に理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：科学的根拠に基づく看護を対象の個別性に応じて実践する方法を理解する。 目標： 1. 理論の成り立ち、看護理論の特徴と機能について理解する。 2. 看護過程の各段階と機能を明らかにする。 3. 看護技術と看護過程・看護理論の関係を学習し、看護過程の展開方法を理解する。 4. 1. から3. をとおして、看護実践における看護理論・看護過程の重要性を見いだす。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	学科目ガイダンス	講 義		山 下
	2	看護理論概説	講 義		山 下
	3, 4	ナイチンゲール「看護覚え書き」	講 義		田 渕
	5, 6	ヘンダーソン「看護の基本となるもの」	講 義		山 下
	7, 8	キング「キング看護理論」	講 義		山 下
	9	看護理論演習（グループ演習）	演 習	グループごとに演習成果を資料としてまとめ、提出	土井、高橋、保坂、田渕、服部、大川、佐藤、北島、山下
	10, 11	グループ演習成果発表	演 習	演習成果発表後、レポートを記載し、提出	土井、高橋、保坂、田渕、服部、大川、佐藤、北島、山下
	12	看護過程概説	講 義		山 下
	13	看護過程（アセスメント）	講 義		高 橋
	14	看護過程（問題の明確化）	講 義		山 下
	15	看護過程演習（計画、実施、評価）	講 義		高 橋
	16-20	看護過程演習①②③④⑤	演 習		適宜、授業中に学習課題を提示する。それに応じ、学習成果を提出
	21	参加観察実習オリエンテーション	講 義		山 下
	22, 23	参加観察実習	実 習	実習後、レポートを記載し、提出	岩波、北爪、土井、高橋、保坂、田渕、服部、大川、佐藤、肥後、山下
	24	看護過程（まとめ①）	講 義		山 下
25-29	看護過程演習⑥⑦⑧⑨⑩	演 習	看護過程演習終了後、演習成果をまとめ、提出	岩波、北爪、土井、高橋、保坂、田渕、服部、大川、佐藤、北島、山下	
30	看護過程（まとめ②）	講 義		山 下	
評 価 方 法	看護理論演習 20%、参加観察実習 20%、看護過程演習 20%、筆記試験 40%（看護理論 10%+看護過程 30%）				
教 科 書	フローレンス・ナイチンゲール著：湯槇ます他訳：看護覚え書き 改訂第7版，現代社，2011. ヴァージニア・ヘンダーソン著：湯槇ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，1995. アイモジン・キング著：杉森みどり訳：キング看護理論，医学書院，1985. 秋葉公子他：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第3版，ヌーヴェルヒロカワ，2009.				
参 考 書 参 考 文 献 等	R. アルファロ・ルフィーヴァ著：江本愛子監訳：基本から学ぶ看護過程と看護診断 第6版，医学書院，2008.				
備 考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否
授業科目名	看護技術学各論Ⅵ（実習）			科目履修	否
科目番号	N11008	クラス番号	N1		
授業形式	実習	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 後期semester	単 位	2単位 90時間		
科目責任者	山下暢子	そ の 他			
担当教員	【第1クール】肥後、土井、高橋、保坂、田淵、服部、大川、佐藤、岩波、山下 【第2クール】肥後、土井、高橋、保坂、田淵、服部、大川、佐藤、北爪、山下				
授業の概要	病院に入院し生活している1名の対象を受け持ちアセスメントから看護目標の設定、計画立案、実施、評価の一連の過程を経験する。また、特に実施段階においては、これまで習得した技術の提供を通して、看護技術を個別化することの実際と意義を学習する。さらに、看護の目標を達成し、対象の健康状態の維持・向上を図るためには、科学的根拠に基づく実践が重要であり、看護学がこれを支える基盤になっていることを理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：看護技術学概論から各論を通して学習した内容を統合するために、現実の環境において生活する対象に看護過程を展開する。この過程を通して科学的根拠に基づく看護を対象の個性に応じて実践する意義を認める。 目標：1. クライアント1名を対象としてアセスメント、看護問題・共同問題の明確化、看護目標の設定、計画立案、実施、評価という一連の過程を実際に経験する。 2. 1.を達成する過程に基づき、看護理論を適用し看護技術を個別化する方法を理解する。 3. 1.2.を達成する過程を通して、看護職には看護の目標達成に向けて科学的根拠と高い倫理観に基づき看護実践を展開する責任があることを確認する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1, 2	実習オリエンテーション	講 義	・日々、①学習計画用紙を提出する。提出後、できるだけ早く教員のコメントを記載した①学習計画用紙の返却を受ける。 ・実習終了後、①学習計画用紙、②実習記録、③レポートを作成し、担当教員へ提出する。	山下、保坂
	3, 4	グループ別オリエンテーション	演 習		【第1クール】 肥後、土井、高橋 保坂、田淵、服部 大川、佐藤、岩波 山下
	5-43	フィールドにおける実習 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)	実 習		【第2クール】 肥後、土井、高橋 保坂、田淵、服部 大川、佐藤、北爪 山下
44, 45	統合カンファレンス	演 習			
	【期間】 第1クール 平成25年2月12日(月)より2月22日(金) 学生約40名が実習 第2クール 平成25年2月25日(月)より3月8日(金) 学生約40名が実習				
	【場所】 第1クール 前橋赤十字病院 6病棟 群馬県立心臓血管センター 4病棟 第2クール 前橋赤十字病院 8病棟				
	【担当教員】 両クールともに、学生4から5名のグループを形成し、教員が担当する。				
	【内容・方法】 病院に入院し生活している1名の対象を受け持ちアセスメントから看護目標の設定、計画立案、実施、評価の一連の過程を経験する。				
評価方法	行動目標の達成状況 100%				
教科書	特になし				
参考書 参考文献等	看護技術学概論、各論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴの配布資料				
備 考	1月中に事前のオリエンテーションを行う。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術			聴講	可
授業科目名	看護倫理学			科目履修	可
科目番号	N11009	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	1単位 15時間		
科目責任者	肥後すみ子	そ の 他			
担当教員	肥後すみ子				
授業の概要	看護職者に必要な倫理の知識を学び、倫理的問題に直面したときに必要な行動を選択するための態度の基礎を学習する。また、実践看護における倫理原則の特徴とその遵守の重要性を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>学科目的：生命倫理に関する基礎的理解に基づき、看護実践における倫理原則の特徴とその遵守の重要性を理解する。</p> <p>学科目標：1. 看護実践において看護師が遭遇する倫理的問題を理解する。 2. 看護実践における倫理原則の特徴を理解する。 3. 看護師の倫理的責任を理解する。 4. アドボケーターとしての看護師の役割を理解する。 5. 看護師として倫理的な行動をとることがいかに重要かを理解する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	看護実践において遭遇する倫理的問題	講義	適宜指示	肥後
	2	看護者の倫理綱領			
	3	看護実践における倫理原則			
	4	看護師の倫理的責任と看護行為			
	5	患者の権利と自己決定			
	6	アドボカシー			
	7	患者の権利と自己決定を支援する他職種との協働			
評価方法	出席状況(30%)、レポート(70%)				
教科書	日本看護協会監修：新版・看護者の基本的責務，日本看護協会出版会，2011.				
参考書 参考文献等	小西恵美子：看護倫理，南江堂，2010.				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術			聴講	可
授業科目名	看護対象擁護論			科目履修	可
科目番号	N110010	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	4年次 後期semester	単 位	1単位 15時間		
科目責任者	肥後すみ子	そ の 他			
担当教員	肥後すみ子				
授業の概要	看護職者として倫理的な判断をするための基礎的能力を養うため、対象の人権とその擁護に関わる様々な事例を検討し、すべての看護職者に共通する役割としての対象擁護の本質及びその重要性を学ぶ。看護の質を保証するために看護実践における法と倫理の影響を学習し、対象の人権擁護における看護職の役割を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：看護の質を保証するために看護実践における法と倫理の影響を学習し、対象の人権擁護における看護職の役割を理解する</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の人権が確立されつつある現在までの歴史的過程を理解する 2. 対象の人権擁護に関係する法律および倫理宣言を理解する 3. 医療・看護の現場において対象の人権がどのように侵害される恐れがあるのか理解する 4. 対象の人権を擁護するために看護職者としてどのように行動すればよいのか、理解する 5. 対象を擁護することの重要性を理解する 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1～7	<p>学科目標の達成に向け、次のようなグループワークを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習中、学生が遭遇した倫理的問題を含むと思われる事例を取り上げ、問題を明確化する。 ・ 文献から医療・看護の現場における人権侵害の事例を分析する。 ・ 看護職者がアドボケイトとしての役割を果たすための方法を検討する 	講義 演習	適宜指示	肥後
評価方法	授業への出席状況・積極性(30%)、レポート(70%)などにより総合的に評価する。				
教科書	なし				
参考書 参考文献等	授業において提示する。				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 人間の生涯発達と看護			聴講	可
授業科目名	生涯発達看護学概論			科目履修	可
科目番号	N12001	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 前期セメスター	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	行田智子	そ の 他			
担当教員	行田智子、横山京子、田村文子、中西陽子、小川妙子				
授業の概要	「人間の発達と健康」を通して学習した人間の生涯発達の各段階における正常な健康状態および正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する学習を前提とする。人間が受胎から誕生し死に至るまでの身体・心理・社会的変化である生涯発達の特徴を踏まえ、その生涯発達における潜在的・顕在的な健康上の問題およびその解決に向けて必要な看護実践並びに看護職者の役割について学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：対象の発達上の特徴を踏まえて看護を展開する意義を学習する。</p> <p>目標1. 生涯発達看護学の特徴と理念を理解する。</p> <p>2. 各期における看護の対象および看護の目標を理解する。</p> <p>3. 各期に生じやすい健康問題が対象とその家族に及ぼす影響を理解する。</p> <p>4. 各期における人間の発達と健康の特徴を踏まえて個別的に看護を展開する必要性を理解する。</p> <p>5. 各期における看護職者の役割を理解する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	生涯発達看護学の観点、生涯発達看護学の定義、生涯発達看護学の対象・看護の目標・看護職者の役割	講義	各期の「人間の発達と健康」の内容を復習しておくこと	行田
	2	母胎期にある胎児と胎児の発達に影響する母胎の健康問題			
	3	母胎期にある対象の健康問題による家族への影響			
	4	母胎期の対象にかかわる看護職者の役割			
	5	乳幼児期・学童期にある対象の健康問題とそれに伴う症状・反応			横山
	6	乳幼児期・学童期にある対象の健康問題による家族への影響			
	7	乳幼児期・学童期にある対象にかかわる看護職者の役割			
	8	思春期・青年期にある健康問題とそれに伴う症状・反応、健康問題による家族への影響			
	9	思春期・青年期にある対象にかかわる看護職者の役割			
	10	成人期にある対象の健康問題とそれに伴う症状・反応			
	11	成人期にある対象の健康問題による家族への影響			
	12	成人期にある対象にかかわる看護職者の役割			中西
	13	老年期にある対象の健康問題とそれに伴う症状・反応、健康問題による家族への影響			
	14	老年期にある対象の看護職者の役割			
15	各期における看護の特徴と看護職者の役割 (グループディスカッション後、発表)	演習	グループディスカッション内容のレポートを提出	行田	
評 価 方 法	出席状況及びレポート10%、講義終了後のテスト90%による総合評価				
教 科 書	特になし				
参 考 書 参 考 文 献 等	授業中に資料を配付する。授業中に提示する。				
備 考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 人間の生涯発達と看護			聴講	否
授業科目名	生涯発達看護学各論Ⅰ（母胎期）			科目履修	否
科目番号	N12002	クラス番号	N1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 後期セメスター	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	行田智子	そ の 他			
担当教員	行田智子、田村文子、河内美江、堀込和代、菱谷純子、橋爪由紀子				
授業の概要	「人間の発達と健康各論Ⅰ」において学習した母胎期にある人間の正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する理解を前提とする。受胎から誕生に至る人間（胎児）とこれを体内に宿した人間（妊産婦）の潜在・顕在する健康上の問題を回避し、妊娠・出産並びに新生児期における母子の健全な発達を支援する方法を家族への支援も含め学習する。また、この過程を通し、効果的な看護を展開するために研究成果に基づく知識・技術を活用する意義を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：母胎期（妊娠・分娩・産褥・新生児）にある対象とその家族な健全な発達支援に向けて、個別性に応じた看護を展開する方法を学習する。 目標：1. 母胎期にある対象の潜在・顕在する健康状態をアセスメントする。 2. 母胎期にある対象の状態に応じた看護を理解する。 3. 看護およびアセスメントに必要な母胎期の看護技術を習得する。 4. 事例のアセスメントに基づき、対象の個別性に応じた看護過程の展開方法を学習する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	妊娠期にある対象への看護①：妊婦の観察に必要な情報収集の方法	講義・演習	各回に関連する人間の発達と健康各論Ⅰ（母胎期）の知識を復習しておくこと	行田
	2	妊娠期にある対象への看護②：妊娠期の基本的な生活と相談、保健指導・相談に必要な知識、妊娠期の異常に対する看護			行田
	3	妊娠期にある対象への看護③：妊娠期の心理・社会的行動、出産育児行動			行田
	4	分娩期にある対象への看護①：分娩期の基礎知識と妊娠期における分娩への準備、			行田 橋爪
	5	分娩期にある対象への看護②：分娩期の観察視点と看護			河内
	6	分娩期にある対象への看護③：分娩期の異常に対する看護、母胎期の安全管理			行田
	7	産褥期にある対象への看護①：産褥期の観察視点と看護			河内 菱谷
	8	産褥期にある対象への看護②：母乳育児と看護 産褥期にある対象への看護③：産褥期の異常と看護			河内
	9	新生児期にある対象への看護①：新生児の観察視点と看護			堀込
	10	新生児期にある対象への看護②：新生児に起こりやすい異常と看護 母胎期に起こりやすい精神疾患の看護			河内
	11	看護過程の展開①： ウェルネス診断とは、 妊娠～産褥期及び新生児のアセスメント視点 演習のオリエンテーション			田村
	12	看護過程の展開②：事例の展開			行田・河内
	13	看護過程の展開及び技術演習 技術演習 ①沐浴 ②レオポルド診断法と胎児心音聴取 ③子宮底長（妊婦・褥婦）・腹囲の測定			母胎期 教員
	14	〃			
15	看護過程の発表				
評価方法	出席状況5%、授業及び演習中の態度5%、課題レポート10%、ミニテスト及び講義終了後のテスト80%による総合評価				
教科書	系統看護学講座専門24 母性看護学 [1] 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座専門25 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院 ウェルネスからみた母性看護過程 医学書院				
参考書 参考文献等	ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程 第2版 医歯学出版 看護データブック 第4版 医学書院、女性生涯発達看護学 真興交易 最新産科学（正常編・異常編）文光堂、 ウイメンズヘルスナーシング 女性のライフサイクルとナーシング ヌーベルヒロカワ ウイメンズヘルスナーシング 周産期ナーシング ヌーベルヒロカワ 仁志田博司著 産科スタッフのための新生児学 メディカ出版				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 人間の生涯発達と看護		聴講	否	
授業科目名	生涯発達看護学各論Ⅱ (乳幼児期・学童期)		科目履修	否	
科目番号	N12003	クラス番号	N1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 後期semester	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	横山京子	そ の 他			
担当教員	横山京子 樋貝繁香 松井貴子 益子直紀				
授業の概要	この授業は、「人間の発達と健康各論Ⅱ」において学習した乳幼児期・学童期にある人間の正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する理解を前提とする。乳幼児期・学童期にある人間の潜在・健在する健康上の問題を解決・回避し、健全な発達を支援するための方法を家族への支援も含め学習する。またこの過程を通し、効果的な看護を展開するために研究成果に基づく知識・技術を活用する意義を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：乳幼児期・学童期にある対象の健全な発達支援に向けて個別性に応じた看護を展開する方法を学習する。 目標： 1. 子どもの入院生活と看護師の役割を理解する。 2. 子どもとその家族への看護実践の基本となる知識と技術を習得する。 3. 子どもの発達段階および健康状態に応じた看護について理解する。 4. 事例のアセスメントを通して、子どもを全人的に理解するための方法を理解する。 5. 事例のアセスメントに基づき、個別性に応じた看護過程を展開する方法を理解する。 6. 乳幼児期・学童期の子どもの看護に関する文献を閲読し、文献活用の意義を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	子どもと家族に関わる看護師の役割	講義		横山
	2	病院における子どもの安全保障、子どもの生活行動と看護：遊び・学習等	講義		横山
	3	健康状態を査定するための方法①発達アセスメント・フィジカルアセスメント・家族アセスメント	講義	別途、課題提示する	樋貝
	4	症状を緩和するための方法①主な症状の観察と看護	講義		樋貝
	5	健康状態を査定するための方法②発達段階に合わせた身体計測	演習	ワークシート提出	全員
	6	健康状態を査定するための方法③バイタルサイン測定	演習	ワークシート提出	全員
	7	症状を緩和するための方法②主な症状の観察と看護	講義		樋貝
	8	急性期の子どもと家族への看護	講義		樋貝
	9	治療・処置を受ける子どもの看護①発達段階に合わせた与薬法	講義	別途、課題提示する	樋貝
	10	治療・処置を受ける子どもの看護②固定・抑制	講義		樋貝
	11	治療・処置を受ける子どもの看護③輸液・注射法	演習	ワークシート提出	全員
	12	治療・処置を受ける子どもの看護④固定法	演習	ワークシート提出	全員
	13	治療・処置を受ける子どもの看護⑤プレパレーション	講義		樋貝
	14	治療・処置を受ける子どもの看護⑥プレパレーション	演習	ワークシート提出	全員
	15	周手術期の子どもと家族への看護	講義		樋貝
	16	染色体異常のある子どもと家族の看護	講義		樋貝
	17	慢性期の子どもと家族への看護：セルフケア行動の獲得への援助	講義		横山
	18	身体に障害のある子どもと家族への看護	講義		横山
	19	低出生体重児と家族への看護	講義		樋貝
	20	子ども虐待・心の問題を持つ子どもと家族への看護	講義		樋貝
	21	施設から在宅移行における他職種・他機関との連携	講義		樋貝
	22	健康上の問題を持つ子どもの看護過程①アセスメント	演習	事例アセスメント 12月に資料配布 2月初旬にアセスメントシート提出	横山
	23	健康上の問題を持つ子どもの看護過程②アセスメント	演習		横山
	24	健康上の問題を持つ子どもの看護過程③アセスメント	演習		横山
	25	健康上の問題を持つ子どもの看護過程④ケアプラン	演習		横山
	26	健康上の問題を持つ子どもの看護過程⑤ケアプラン	演習		横山
	27	健康上の問題を持つ子どもの看護過程⑥実技演習	演習		全員
	28	健康上の問題を持つ子どもの看護過程⑦成果発表	演習		全員
	29	健康上の問題を持つ子どもの看護過程⑧まとめ	演習		全員
	30	子どもと家族への看護の特徴・看護師の役割	講義		
評価方法	課題20% 講義終了後の筆記試験80%				
教科書	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学①小児看護学概論 小児臨床看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学②小児臨床看護各論 医学書院				
参考文献等	病と共に生きる子どもの看護：及川郁子監修 メヂカルフレンド社 発達に障害のある子どもの看護：及川郁子監修 メヂカルフレンド社 予後不良な子どもの看護：及川郁子監修 メヂカルフレンド社 中野綾美：小児看護学-小児看護技術 ナーシング・グラフィカ 29 メディカ出版 小野田千枝子監修：子どものフィジカル・アセスメント 金原出版 その他				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目	聴講	否			
授業科目名	生涯発達看護学各論Ⅲ (思春期・青年期)	科目履修	否			
科目番号	N12004	クラス番号	N1			
授業形式	演習	必修選択区分	必修			
開講時期	3年次 前期 Semester	単位	2単位 60時間			
科目責任者	田村文子	その他				
担当教員	田村文子、関根 正、酒井美子、中野あずさ、横山京子、中西陽子					
授業の概要	この授業は、「人間の発達と健康各論Ⅲ」において学習した思春期・青年期にある人間の正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する理解を前提とする。思春期・青年期にある人間の潜在・顕在する健康上の問題に関し、特に生じやすい精神的側面の健康問題に焦点を当て、これを解決・回避し、健全な発達を支援するための方法を家族への支援も含め学習する。また、この過程を通し、より効果的な看護を展開するために研究成果に基づき知識・技術を活用する意義を理解する。					
学 科 目 的 学 科 目 (評価基準)	目的：思春期・青年期にある対象の健全な発達支援に向けて、個別性に応じた看護を展開する方法を学習する。 目標 1. 思春期・青年期にある対象の潜在・顕在する健康問題をアセスメントする。 2. 健康問題の解決・回避に向けた個別的な看護実践の過程展開を理解する。 3. 健康問題を解決・回避するために必要な技術を対象に応じて実施する。 4. 思春期・青年期にある対象の特性に応じて看護実践を個別化する意義を認める。					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	思春期・青年期にある人とその家族に関わる看護師の役割	講義・演習	・「人間の発達と健康」各論Ⅲの復習 ・セルフケア理論について復習 ・演習終了後レポート	田村	
	2	精神的健康問題をもつ人との関係形成をするための理論：人間関係論			田村	
	3	精神的健康問題をもつ人との関係形成をするための技術：コミュニケーション			田村	
	4	精神的健康問題をもつ人を支援するための看護理論：危機理論			田村	
	5	精神的健康問題をもつ人を支援するための看護理論：セルフケア理論			田村	
	6	精神的健康問題をもつ人への看護援助①：セルフケアレベルのアセスメント			田村	
	7	精神的健康問題をもつ人への看護援助②：①観察と症状アセスメントの方法、②症状アセスメント(幻覚・妄想、興奮、拒絶)			田村	
	8	精神的健康問題をもつ人への看護援助③：症状アセスメント(意欲低下、抑うつ、昏迷、自殺・自傷行為)			田村	
	9	精神的健康問題をもつ人への看護援助④：症状アセスメント(不安、不眠、脅迫)			田村	
	10	精神的健康問題をもつ人への看護援助⑤：症状アセスメント(躁状態・攻撃的状态)			田村	
	11	精神的健康問題をもつ人への看護援助⑥：症状アセスメント(操作的行為、解離性障害)			田村	
	12	精神的健康問題をもつ人への看護援助⑧：統合失調症の経過別看護(急性期、消耗期、回復期)			田村	
	13	精神的健康問題をもつ人への看護援助⑨：家族支援(訪問看護)			田村	
	14	治療・検査をうける人の看護①：各種テスト、精神療法(認知行動療法など)			田村	
	15	治療・検査をうける人の看護②：身体療法(薬物療法、電気けいれん療法など)			田村	
	16	治療・検査をうける人の看護③：社会療法(生活指導、生活技能訓練；SST など)			田村	
	17	小児期からの健康問題をかかえる人への看護援助：キャリアオーバー			横山	
	18	青年期の身体的な健康問題をかかえる人への看護援助⑩：肥満			中西	
	19	精神的健康問題をもつ人への看護過程の展開[演習オリ]			田村	
	20 ～ 25	精神的健康問題をもつ人への看護過程の展開[演習] 20～21：①② 22～23：③④ 24～25：⑤⑥	酒井 田村 関根 中野			
	26	精神看護の変遷とリハビリテーション	田村			
	27	精神的健康問題をもつ人と家族を支える法的基盤①：精神保健福祉法	田村			
	28	精神的健康問題をもつ人と家族を支える法的基盤②：障害者自立支援法とサービス提供体制	田村			
	29	精神科におけるリスクマネジメント(転倒、身体拘束、自殺、無断離院など)	田村			
	30	リエゾン精神看護師の役割	田村			
	評価方法	演習(看護課程演習)の出席状況・レポート(10%)、講義終了後のテスト(90%)により総合的に評価する。出席状況、授業態度は減点の対象とする。				
	教科書	田中美恵子編著：精神看護学 学生-患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版，最新版				
	参 考 文 献	リンダ J. カルペニート著，新道幸恵監訳：看護診断ハンドブック，第5版，医学書院，2006。 ゲイル W. スチュアート他著，神郡 博監訳：精神看護学の新しい展開，医学書院，最新版 萱間真美：精神看護実習ガイド，照林社，2007				
	備 考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 人間の生涯発達と看護			聴講	否
授業科目名	生涯発達看護学各論Ⅳ（成人期）			科目履修	否
科目番号	N12005	クラス番号	N1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	中西陽子	そ の 他			
担当教員	生涯発達看護学（成人期）全教員				
授業の概要	この授業は、「人間の発達と健康」各論Ⅳにおいて学習した成人期にある人間の正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する理解を前提とする。この時期の人間の潜在・顕在する健康上の問題を解決・回避し、健全な発達を支援するための方法を学習する。また、この過程を通し効果的な看護を展開するために研究成果に基づく知識・技術を活用する意義を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：成人期にある対象の健全な発達支援に向けて、個別性に応じた看護を展開する方法を学習する。 目標 1. 成人期にある対象の潜在・顕在する健康問題をアセスメントする。 2. 健康問題の解決・回避に向けた個別的な看護実践の方法を理解する。 3. 健康問題を解決・回避するために必要な看護を、成人の対象に応じて展開する方法を理解する。 4. 成人期にある対象の特性に応じて看護実践を個別化する意義を認める。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1～2	学科目ガイダンス 成人期にある対象の健康問題を理解する必要性とその方法:看護診断と看護過程	講義・演習	必要に応じて課題を提示する。	中西 廣瀬
	3～6	消化・吸収障害のある対象への看護 1)～4) 1)症状アセスメント 2)検査・治療とその看護 3)消化・吸収機能障害の代表的疾患とその看護 4)手術を受ける成人期患者の看護			青山
	7～9	呼吸機能障害のある対象への看護 1)～3) 1)症状アセスメント 2)検査・治療とその看護 3)呼吸機能障害の代表的疾患とその看護			小林
	10～12	肝機能障害のある対象への看護 1)～3) 1)症状アセスメント 2)検査・治療とその看護 3)肝機能障害の代表的疾患とその看護			中西
	13～15	代謝機能障害のある対象への看護 1)～3) 1)症状アセスメント 2)検査・治療とその看護 3)代謝機能障害の代表的疾患とその看護			廣瀬
	16	代謝機能障害のある対象への看護 4) 演習①食品交換表を使用した献立作成 演習②自己血糖測定			廣瀬 中西 橋本 橋本
	17	生殖機能障害のある対象への看護 1) 1)症状アセスメント、検査・治療、生殖機能障害の代表的疾患とその看護			小林
	18	生殖機能障害のある対象への看護 2) 1)症状アセスメント、検査・治療、生殖機能障害の代表的疾患とその看護			小林
	19～20	膵機能障害のある対象への看護 1)～2) 1)症状アセスメント、検査・治療とその看護 2)膵機能障害の代表的疾患とその看護			中西
	21～22	循環器障害のある対象への看護 1)～2) 1)症状アセスメント、検査・治療とその看護 2)循環器機能障害の代表的疾患とその看護	講義		廣瀬
	23	試験	試験		中西
	24～31	健康問題を持つ成人期にある対象への看護過程の展開①～⑧ [成人期事例による看護過程の展開] ①演習オリエンテーション ②～⑧事例展開演習	講義・演習	必要な資料収集の課題を毎回提示する。	成人期全教員
評価方法	出席状況（10%）、演習の参加状況・レポート（20%）、講義終了後のテスト（70%）により総合的に評価する。				
教科書	リンダ J. カルペニート＝モイェ、新道幸恵監訳：看護診断ハンドブック第9版，医学書院				
参考書 参考文献等	阿部光樹他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器，医学書院 金田智他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器，医学書院 河井伸子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝，医学書院 浅野浩一郎他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器，医学書院 雄西智恵美他：成人看護学（第2版）周手術期看護論，ヌーヴェルヒロカワ 日本糖尿病学会編：糖尿病食事療法のための食品交換表 第6版，文光堂				
備考	上記の参考書は生涯発達看護学各論Ⅵ（実習）でも活用します。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 人間の生涯発達と看護			聴講	否
授業科目名	生涯発達看護学各論Ⅴ(老年期)			科目履修	否
科目番号	N12006	クラス番号	N1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester			単位	2単位 60時間
科目責任者	小川妙子		その他		
担当教員	生涯発達看護学(老年期)全教員、中野あずさ				
授業の概要	この授業は、「人間の発達と健康各論Ⅴ」において学習した老年期にある人間の正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する理解を前提とする。老年期にある人間の潜在・顕在する健康上の問題を解決・回避し、健全な発達を支援するための方法を家族への支援を含め学習する。また、この過程を通し、効果的な看護を展開するため研究成果に基づく知識・技術を活用することの重要性を学習する。				
学科学目	目的：老年期にある対象の健全な発達支援に向け、個別性に応じた看護を展開する方法を学習する。 目標1. 老年期の人の健康問題のアセスメントに必要な知識・技術を理解する。 2. 老年期の人の健康問題の解決・緩和・回避にむけた支援方法を理解する。 3. 老年期の人の健康問題を解決・緩和・回避するために必要な看護技術を実施する。 4. 老年期の事例を通して特性に応じた個別的な看護過程の必要性を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1	高齢者のフィジカルアセスメント技術	講義		小川
	2	コミュニケーション障害のアセスメント - 難聴/視力/言語障害の観察と理解	講義	人間の発達と健康各論(老年期): 感覚・知覚の変化の復習	小川
	3	コミュニケーション障害への支援 - 障害に応じた援助 (演習 A: ロールプレイ)	演習	事前課題: 学生のコミュニケーション体験	全教員
	4	治療を必要とする高齢者の看護 1) - 検査、治療における援助(抑うつ)	講義		中野
	5	治療を必要とする高齢者の看護 2) - 薬物療法の特徴と看護	講義		狩野
	6	治療を必要とする高齢者の看護 3) - 検査、治療を受ける高齢者・家族への援助	講義		樋口
	7	治療を必要とする高齢者の看護 4) - 感染のリスクと管理	講義		狩野
	8	排泄障害のある高齢者のアセスメント - 失禁/尿閉/下痢/便秘	講義	人間の発達と健康各論(老年期): 排泄機能の変化の復習	小川
	9	排泄障害のある高齢者の自立に向けた支援 - 排尿誘導、排泄用具の活用	講義		小川
	10	嚥下障害のある高齢者のアセスメント	講義		小川
	11	嚥下障害のある高齢者への食事支援 (演習 B: 嚥下体操/とろみ食試食)	演習	事後課題: 嚥下体験用紙提出	全教員
	12	嚥下障害のある高齢者の食事支援 - 食事助方法と口腔ケア/胃ろう管理	講義		小川
	13	老年期特有の症状を持つ高齢者への支援 *中間試験	講義		小川
	14	認知症の高齢者と家族の理解1) - 認知症に関する基本知識	講義		狩野
	15	認知症の高齢者と家族の理解2) - 認知症によってもたらされる生活上の困難と支援	講義		狩野
	16	認知症の高齢者と家族の理解3) - 認知症高齢者を支える家族の理解と支援	講義		狩野
	17	治療を必要とする高齢者の看護 5) - 手術を受ける高齢者のリスクと術後管理(治療方針の選択、せん妄、肺合併症)	講義		狩野
	18	治療を必要とする高齢者の看護 6) - 手術を受ける高齢者の看護 大腿骨頭骨骨折の概要と術後管理	講義		狩野
	19	治療を必要とする高齢者の看護 7) - 治療に伴う廃用症候群の予防と看護	講義		狩野
	20	治療を必要とする高齢者の看護 8) - 高齢者のリハビリテーションと看護	講義	看護技術学のボディメカニクスを復習	狩野
	21	歩行・移動困難にある高齢者の看護 (演習 C: 麻痺のある人の床上運動と移動)	演習		全教員
	22	歩行・移動困難にある高齢者の看護 (演習 C: 麻痺のある人の床上運動と移動)	演習		全教員
	23	高齢者の社会資源活用と継続看護	講義		狩野
	24	意識障害のある高齢者のアセスメントとケア	講義		樋口
	25	治療を受ける高齢者の看護過程(事例)展開と文献検索 (演習 D-1)	演習	25-30 回事後課題: 看護過程展開用紙、問題リストの個人課題提出	全教員
	26	治療を受ける高齢者の看護過程(事例)展開と文献検索(演習 D-2)	演習		全教員
	27	治療を受ける高齢者の看護過程(事例)展開と文献検索(演習 D-3)	演習		全教員
	28	事例の看護過程発表・レポート作成 3(演習 D-4)	演習		全教員
	29	事例の看護過程発表・レポート作成 (演習 D-5)	演習		全教員
	30	事例の看護過程発表・レポート提出 (演習 D-6)	演習		全教員
評価方法	出席状況、講義終了後のテストによる総合評価				
教科書	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門 21 老年看護 病態・疾患 医学書院				
参考文献等	野口美和子編: 最新 高齢者看護プラクティス 疾患・障害をもつ高齢者の看護、中央法規				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 人間の生涯発達と看護			聴講	否
授業科目名	生涯発達看護学各論VI (実習)			科目履修	否
科目番号	N12007	クラス番号	N1		
授業形式	実習	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次後期～4年次	単 位	10単位 450時間		
科目責任者	横山京子	そ の 他			
担当教員	生涯発達看護学全教員				
授業の概要	現実の実践環境に身を置きながら、母胎期から老年期までの発達段階の異なる様々な対象を受け持ち、その健康問題の解決・回避に向け看護過程を展開する。また、この実践を通して、対象の発達段階に対する理解を前提に個別性に応じた看護を展開する方法を学習する。さらに、チームの一員としての役割及び保健医療福祉との連携、協働の意義を学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：生涯発達看護学概論・各論において学習した内容を総合し、様々な発達段階にある対象の顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決・回避に向けて対象および環境と相互行為を展開する方法を学習する。</p> <p>目標：</p> <p>(1) 発達段階各期にある対象の発達課題と特徴、対象を取り巻く環境に基づいて対象を理解する。</p> <p>(2) 発達段階各期にある対象の顕在・潜在する健康問題を身体・心理・社会的側面からアセスメントする。</p> <p>(3) 発達段階各期にある対象の顕在・潜在する問題の解決・回避に向けた個別的な看護計画を立案・実施・評価する。</p> <p>(4) 発達段階各期にある対象への看護実践を通して看護の意義を見いだす。</p> <p>(5) 保健・医療・福祉における看護の役割・機能を理解する。</p> <p>(6) 発達段階各期の対象への看護実践を通して、看護の対象を生涯発達し続ける存在として捉え、その理解に基づき看護を実践することの意義を確認する。</p>				
授業の内容と方法	回	1 クールの授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	各期別オリエンテーション・学内演習	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習ガイドライン必読 ・生涯発達看護学概論・各論 I～V の復習 ・各期の行動目標、フィールドの特徴に応じて、実習に必要な学習課題を提示する ・各期終了後レポート ・5クール終了後統合レポート 	各期教員
	2	各期別フィールドにおける実習 (1)	実習		
	3	各期別フィールドにおける実習 (2)	実習		
	4	各期別フィールドにおける実習 (3)	実習		
	5	各期別フィールドにおける実習 (4)	実習		
	6	各期別フィールドにおける実習 (5)	実習		
	7	各期別フィールドにおける実習 (6)	実習		
	8	各期別フィールドにおける実習 (7)	実習		
	9	各期別フィールドにおける実習 (8)	実習		
	10	学内演習	演習		
	<p>【期間】平成24年10月1日(月)～平成25年6月7日(金) 2週間ずつ5クール</p> <p>【場所】前橋赤十字病院、伊勢崎市民病院、県立小児医療センター、群馬大学医学部附属病院、県立精神医療センター、医療法人赤城病院、地域活動支援センターピアーズ</p> <p>【教員】学生5名から6名の14グループを形成し、教員1名が担当する</p> <p>【内容・方法】主として各期にある対象者1名を受け持ち看護過程の展開を行う *原則として、各期3分の2以上の出席が必要</p>				
評価方法	各期実習における行動目標の達成状況 90%、生涯発達看護学統合レポート 10%				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	生涯発達看護学概論、生涯発達看護学各論 I～V の配布資料 その他、別途提示する				
備考	7月中に全体オリエンテーション予定、詳細は、実習要項参照				

科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康と看護			聴講	可	
授業科目名	地域健康看護学概論			科目履修	可	
科目番号	N13001	クラス番号	N1			
授業形式	講義	必修選択区分	必修			
開講時期	2年次 後期semester	単 位	2単位 30時間			
科目責任者	齋藤 基	そ の 他				
担当教員	地域健康看護学教員全員					
授業の概要	<p>様々な環境下において生活する個人、家族及び集団の顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決や発生の回避（予防）に向けて、地域において看護活動を展開する意義と方法を学習する。</p> <p>地域健康看護学とは、地域に生活する個人、家族及び集団の健康生活を目指し、これらの対象が地域社会に生活する場の環境に着目し、家庭環境、保健・医療・福祉施設環境、学習環境、労働環境の4領域と捉える。また、それぞれの環境の特徴との関連から健康問題を把握し、個別的な看護活動に加え、地域社会のシステム化により組織的に問題解決を目指す看護のあり方を追求する学問である。この授業においては、地域健康看護学領域における概念の基盤となる地域看護活動の目的・対象・方法の理論的特性を学習する。また、地域看護活動を構成する様々な看護職者の専門性と機能について学習する。</p>					
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：地域における様々な環境下において生活する人々に対し、その発達段階に応じた健康の保持・増進に向けて展開する看護の意義を学習する。</p> <p>目標：1. 地域における看護の理念とその活用方法を理解する。 2. 地域における対象及び活動の分野を理解する。 3. 地域における活動方法及び看護技術を理解する。 4. 地域における活動の根拠となる法律及び活動の背景となる歴史を理解する。</p>					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	地域看護の概念（基本理念等）	講義	毎回の授業終了時に課題を提示する。	齋藤	
	2	地域看護活動の対象（個人・家族・組織・地域）				
	3	地域看護活動の分野（家庭環境等の4領域）				
	4	地域看護活動論①（地域看護活動の展開過程）				大澤
	5	地域看護活動論②（活用できる理論・モデル）				
	6	地域看護技術論①（家庭訪問）				原
	7	地域看護技術論②（健康相談・健康診査）				齋藤
	8	地域看護技術論③（健康教育）				
	9	地域看護活動に関わる法規（活動の法的根拠等）				
	10	地域看護活動の歴史（日本の公衆衛生看護の変遷）				
	11	観察実習①（オリエンテーション・学内演習）	演習	既存資料等から実習地域の情報収集を行う。	全員	
	12	観察実習②（学内演習）				
	13	観察実習③（フィールド：県内山間部町村）	実習	実習地域の観察データに基づき情報を整理する。		
	14	観察実習④（フィールド：県内山間部町村）				
15	観察実習⑤（統合演習）	演習	課題レポートを提出する。			
評価方法	授業終了後の試験（70%）、観察実習における行動目標の達成状況（30%）					
教科書	1)奥山則子他編：標準保健師講座1 地域看護学概論，医学書院 2)中村裕美子他編：標準保健師講座2 地域看護技術，医学書院					
参考書 参考文献等	1)厚生統計協会編：国民衛生の動向，厚生統計協会，2011/2012					
備考	演習・実習以外の授業については聴講が可能である。					

科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康と看護		聴講	可	
授業科目名	地域健康看護学各論 I (家庭環境)		科目履修	可	
科目番号	N13002	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	原美弥子	そ の 他			
担当教員	原美弥子、飯田苗恵、鈴木美雪、塩ノ谷朱美				
授業の概要	<p>家庭を主な生活の場とする個人、家族及び集団の顕在、潜在する健康問題を査定し、その解決や発生の回避に向けて、看護活動を展開するための知識・技術・態度を学習する。地域における看護活動は、家庭に生活の場を置く家族を一つの単位として捉えたアプローチを行うことを基本とする。家族とは、家族員の日常生活における健康保持増進のためのケア機能を持つものであり、育児や介護、家族員の疾患などに対するケアは本来生活の営みの中で成し遂げられるものである。この授業においては、家庭において家族によるケアが機能し、健康問題の解決や発生の回避（予防）により、家族の発達課題を成し遂げられるように支援する看護職の役割と機能を学ぶ。</p>				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的： 家庭を主な生活の場とする個人、家族及び集団の顕在、潜在する健康問題を査定し、その解決や発生の回避に向けて、看護活動を展開するための知識・技術・態度を学習する。</p> <p>目標： 1. あらゆる健康レベルにある家族の日常生活、及び家族を一つの単位として家庭内の健康保持増進のためのケア機能を理解する。 2. 家庭に生活する療養者・家族等を対象に展開する在宅ケアにおける看護活動の基本となる知識・技術・態度を理解する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1	家庭環境における家族と看護	講義	毎回、学習課題を提示	原
	2	家族の機能、家族の健康			
	3	家庭環境における看護過程(1)			
	4	家庭環境における看護過程(2)			
	5	療養者・家族を支える法律	講義		飯田
	6	療養者・家族に関する看護技術			
	7	在宅要介護高齢者・家族への看護援助	演習		飯田 鈴木 塩ノ谷 原
	8	療養者・家族への看護援助方法(1)			
	9	重篤な療養者・家族への看護援助			
	10	難病療養者・家族への地域支援ネットワーク	講義		飯田
	11	療養者・家族への看護援助方法(2)	演習		
	12	療養者・家族への看護援助と安全管理	講義		原
	13	家庭環境における療養者・家族の倫理			
	14	家庭環境におけるリハビリテーションと QOL			
15	全体まとめ				
評 価 方 法	<p>課題成果(20点)、テスト(70点)、出席(10点)から総合的に評価</p> <p>※15回の講義等(前半7回・後半7回の講義等)の後に実施する試験日時は別途指定する。</p>				
教 科 書	指定しない				
参 考 書 参 考 文 献 等	<p>鈴木和子、渡辺裕子著 『家族看護学 理論と実践』 日本看護協会出版会 2006.</p> <p>木下由美子編集 『新版 在宅看護論』 医歯薬出版 2009.</p>				
備 考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康と看護		聴講	可	
授業科目名	地域健康看護学各論Ⅱ（保健・医療・福祉施設環境）		科目履修	可	
科目番号	N13003	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	大澤真奈美	そ の 他			
担当教員	大澤真奈美、飯田苗恵				
授業の概要	様々な健康問題を持ち、保健・医療・福祉施設において生活、または、これらの施設を利用する人々及びその家族に対する看護の実際を学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>教育目的：様々な健康問題を持ち、保健・医療・福祉施設において生活または、これらの施設を利用する人々及びその家族に対する地域看護活動の実際を学習する。</p> <p>教育目標：1. 保健医療福祉施設環境において疾患や障害を抱えて生活する対象の特徴、および生活と健康との関連を理解する。</p> <p>2. 対象の健康に関する課題と取り組みの現状（諸施策や保健活動）を理解する。</p> <p>3. 生活の営みの中で対象の疾病・障害の回復・改善と健康を保持増進するための看護活動を理解する。</p> <p>4. 保健医療福祉施設環境という視点から地域で生活する人々に対する看護活動のあり方を考える。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	心身障害を抱え生活する人々への看護活動(1)	講義	前半及び後半まとめ時に中間試験を行なうので、各単元が終了したら、講義プリントを中心に復習する	飯田
	2	心身障害を抱え生活する人々への看護活動(2)			
	3	心身障害を抱え生活する人々への看護活動(3)			
	4	精神障害を抱え生活する人々への看護活動(1)			大澤
	5	精神障害を抱え生活する人々への看護活動(2)			
	6	精神障害を抱え生活する人々への看護活動(3)			
	7	難病を抱え生活する人々への看護活動(1)			
	8	難病を抱え生活する人々への看護活動(2)			
	9	前半まとめ			
	10	感染症の予防と拡大防止における看護活動(1)			
	11	感染症の予防と拡大防止における看護活動(2)			
	12	感染症の予防と拡大防止における看護活動(3)			
	13	グループ組織化支援における看護活動(1)			
	14	グループ組織化支援における看護活動(2)			
	15	後半まとめ			
評価方法	筆記試験（前半 50%、後半 50%）による。 出席状況、授業態度は減点の対象とする。				
教科書	標準保健師講座 2 地域看護技術, 医学書院 標準保健師講座 3 対象別地域看護活動, 医学書院				
参考文献等	厚生統計協会編：「国民衛生の動向」最新版, 厚生統計協会編：「国民福祉の動向」最新版 看護法令要覧 最新版, 最新地域看護学各論Ⅰ（日本看護協会出版会）				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康と看護		聴講	可		
授業科目名	地域健康看護学各論Ⅲ (学習環境)		科目履修	可		
科目番号	N13004	クラス番号	N1			
授業形式	講義	必修選択区分	必修			
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	2単位 30時間			
科目責任者	齋藤 基	そ の 他				
担当教員	齋藤 基、横山京子、大澤真奈美、飯田苗恵、鈴木美雪、塩ノ谷朱美					
授業の概要	<p>幼児期から思春期に及ぶ発達段階にある個人・集団が学習活動を行う場である保育園・幼稚園、学校などの学習環境を対象の生活の場として位置づけ、これらの場に身を置く対象の顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決や発生の回避（予防）に向けて看護活動を展開するための知識・技術・態度を学習する。学習活動を行う対象は、家庭を生活の基盤としており、学習活動に関わる健康問題の発生・回避（予防）においては、学習環境と家庭環境の影響が大きい。この授業においては、これら両側面から健康問題の特徴を理解し、問題を解決するための看護活動を学習する。</p>					
学 科 目 的 学 科 目 標 (評価基準)	<p>目的：生涯学習の視点から学習環境を捉え、そこで生活する対象の健康を保持・増進するための看護活動を学習する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習環境において生活する対象の特徴および生活と健康の関連を理解する。 2. 対象の健康に関する課題と取り組みの現状（諸施策や活動）を理解する。 3. 生活の営みの中で対象の健康を保持増進するための看護活動を理解する。 4. 学習環境という視点から地域で生活する人々に対する看護活動のあり方を考える。 					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	乳幼児・児童・生徒の健康を支える看護活動の理念及びシステム	講義	毎回の授業終了時に課題を提示する。	齋藤	
	2	乳幼児の健康と家庭生活				
	3	乳幼児の健康な成長発達を促す看護活動①				塩ノ谷
	4	乳幼児の健康な成長発達を促す看護活動②				
	5	乳幼児の健康な成長発達を促す看護活動③			大澤	
	6	児童・生徒の健康を支える看護活動①				
	7	児童・生徒の健康を支える看護活動②				
	8	児童・生徒の健康を支える看護活動①（学校保健）			齋藤	
	9	児童・生徒の健康を支える看護活動②（学校保健）				
	10	児童・生徒の健康を支える看護活動③（学校保健）				
	11	児童・生徒の健康問題の特徴と看護活動の実際			鈴木	
	12	乳幼児の健康な成長発達を促す看護活動③ (家庭訪問の実際)	演習	課題レポートを作成し、提出する。		塩ノ谷 鈴木 飯田 齋藤
	13	乳幼児の健康な成長発達を促す看護活動④ (家庭訪問の実際)				
	14	健康問題を持つ児童・生徒の学習環境適応における問題	講義	特になし。		横山
15	健康問題を持つ児童・生徒の学習環境適応に向けた看護活動の実際					
評 価 方 法	授業終了後の試験（70%）、演習の課題レポート（30%）					
教 科 書	松田正巳他著：標準保健師講座3 対象別地域看護活動，医学書院					
参 考 書 参 考 文 献 等	平山朝子編：公衆衛生看護学大系③母子保健指導論，日本看護協会出版会 厚生統計協会編：国民衛生の動向，厚生統計協会など授業で適宜提示する。					
備 考	演習以外の授業については聴講が可能である。					

科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康と看護		聴講	可				
授業科目名	地域健康看護学各論Ⅳ (労働環境)		科目履修	可				
科目番号	N13005	クラス番号	N1					
授業形式	講義	必修選択区分	必修					
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	2単位 30時間					
科目責任者	大澤真奈美	そ の 他						
担当教員	大澤真奈美、原美弥子、飯田苗恵、鈴木美雪、塩ノ谷朱美							
授業の概要	<p>青年期から老年期に及ぶ発達段階にある個人、集団が労働に従事する様々な環境を対象の生活の場として位置付け、これらの労働環境に身を置く対象の顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決や発生の回避（予防）に向けて看護活動を展開するための知識・技術・態度を学習する。労働とは、人々が環境との相互行為により、生活手段や生産手段を作り出し、経済的な基盤を確立するとともに社会生活における事故の存在意義を確立するために行う重要な活動であり、地域において人々の労働生活を支援する看護職の役割は大きい。また、労働に従事する人々の多くは、家庭を生活の基盤としておくものであり、労働生活にかかわる健康問題の発生・回避（予防）においては、労働環境および家庭環境の影響が大きい。この授業においては、これらの側面から健康問題の特徴を理解し、地域において看護活動を展開する方法を学習する。</p>							
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：様々な環境下において就労する対象の健康の保持増進に向けて、個人ならびに集団と相互行為を展開するための知識・技術・態度を学習する。</p> <p>目標：1. 労働環境において生活する対象の特徴および生活と健康の関連を理解する。 2. 対象の健康に関する課題と取り組みの現状（諸施策や活動）を理解する。 3. 生活の営みの中で対象の健康を保持増進するための看護活動を理解する。 4. 労働環境という視点から地域で生活する人々の対する看護活動のあり方を考える。</p>							
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当			
	1	労働者の健康を保持増進する看護活動(1)	講義	前半及び後半 まとめ時に中 間試験を行な うので、各単 元が終了した ら、講義プリ ントを中心に 復習する。	大澤			
	2	労働者の健康を保持増進する看護活動(2)						
	3	労働者の健康を保持増進する看護活動(3)						
	4	労働者の健康を保持増進する看護活動(4)			原			
	5	事業場が行なう労働衛生対策と看護職の役割(1)	演習		前半及び後半 まとめ時に中 間試験を行な うので、各単 元が終了した ら、講義プリ ントを中心に 復習する。	大澤 飯田 鈴木 塩ノ谷		
	6	事業場が行なう労働衛生対策と看護職の役割(2)						
	7	事業場が行なう労働衛生対策と看護職の役割(3)						
	8	前半まとめ	講義			前半及び後半 まとめ時に中 間試験を行な うので、各単 元が終了した ら、講義プリ ントを中心に 復習する。	大澤	
	9	成人期にある人々の健康を保持増進する看護活動(1)						
	10	成人期にある人々の健康を保持増進する看護活動(2)						
	11	成人期にある人々の健康を保持増進する看護活動(3)						
	12	老年期にある人々の健康を保持増進する看護活動(1)						
	13	老年期にある人々の健康を保持増進する看護活動(2)						塩ノ谷
	14	老年期にある人々の健康を保持増進する看護活動(3)						
15	後半まとめ		大澤					
評価方法	筆記試験（前半40%、後半40%）および演習課題（20%）による。							
教科書	標準保健師講座2 地域看護技術, 医学書院 標準保健師講座3 対象別地域看護活動, 医学書院							
参考書 参考文献等	厚生統計協会編：「国民衛生の動向」最新版 看護法令要覧 最新版, 最新地域看護学各論Ⅰ・各論Ⅱ（日本看護協会出版会）							
備考	特になし							

科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康と看護			聴講	否
授業科目名	地域健康看護学各論V (実習)			科目履修	否
科目番号	N13006	クラス番号	N1		
授業形式	実習	必修選択区分	必修		
開講時期	3～4年次 後期～前期セメスター	単 位	4単位 180時間		
科目責任者	齋藤 基	そ の 他			
担当教員	地域健康看護学全教員				
授業の概要	地域健康看護学概論・各論で学習した内容を総合し、地域で生活する個人並びに集団の顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決回避に向けて地域看護活動を展開する方法を学習する。この授業においては、家庭環境、保健・医療・福祉施設環境、労働環境、学習環境において生活する対象に看護職者が提供する実践の目的と特徴を理解するために、それぞれの環境をフィールドとして個人並びに集団と相互行為を展開する。また、これら環境の特徴と健康との関連の理解に基づき、地域全体の健康状態を査定し、個人、集団を対象に看護活動を計画、実施する方法を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：地域健康看護学概論・各論で学習した内容を総合し、地域で生活する個人並びに集団の顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決回避に向けて地域看護活動を展開する方法を学習する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活する人々と生活の場の特徴に応じた相互行為を展開し、生活を営む環境と健康の関係性を理解する。 2. 地域で生活する個人および集団の健康をアセスメントし、看護計画を立案する。 3. 地域で生活する個人および集団に対応した看護実践の特徴を理解する。 4. 地域で生活する個人および集団の看護において、保健・医療・福祉との連携・調整の重要性を確認する。 5. 地域で生活する個人および集団の健康を支える地域ケアシステムにおける看護の役割・機能の意義を見出す。 				
	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	オリエンテーション・学内演習	演習	実習フィールドごとに課題を提示する。	地域健康看護学全教員
	2～5	訪問看護ステーション実習(家庭環境)	実習		
	6	学校実習(学習環境)	実習		
	7～9	重症心身障害児施設実習 (保健・医療・福祉施設環境)	実習		
	10	学内演習・オリエンテーション	演習		
	11	学内演習	演習		
	12	事業所実習(労働環境)	実習		
	13～15	保健福祉事務所・中核市保健所実習 (包括的地域環境)	実習		
	16～19	市町村保健センター実習 (包括的地域環境)	実習		
	20	学内演習・統合演習	演習		
	<p>【期間】平成24年10月～平成25年6月 1グループ4週間</p> <p>【場所】訪問看護ステーション、学校、重症心身障害児施設、事業所、保健福祉事務所、中核市保健所、市町村保健センター</p> <p>【グループ編成】1グループ当たり学生5～6人で14グループを編成する。</p> <p>【方法】オリエンテーション、学内演習、臨地実習により学習活動を展開する。 ※原則として実習日数の3分2以上の出席が必要。</p>				
評価方法	各実習フィールドにおける行動目標の達成状況(90%)、統合演習レポート(10%)				
教科書	指定なし。				
参考書 参考文献等	地域健康看護学概論、地域健康看護学各論I～IVで使用した教科書、配付資料 その他、担当教員が提示する。				
備考	特になし。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	可
授業科目名	機能看護学概論			科目履修	可
科目番号	N14001	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 後期semester	単 位	1単位 15時間		
科目責任者	吉富美佐江	そ の 他			
担当教員	機能看護学全教員、中里貴江				
授業の概要	機能看護学は、看護学生を含む看護職者の成長・発達支援とその役割と機能の発揮に焦点をあて、究極的には、対象の健康状態の維持・向上に貢献することを目指す学問である。この授業においては、機能看護学の諸側面である看護教育、看護管理、看護政策に関してその概要を学習する。また、これらの充実が看護職者個人やシステムとしての看護の質に影響し、対象の健康状態の改善に貢献することを学習する。さらに、この過程を通し看護職者が制度的側面に関わりその機能と役割を發揮する意義を理解する。				
学科目的 学科目標	目的：国内外の様々な場において看護職者が果たしている役割と機能を学習することを通して、機能看護学の目的と意義を理解する。 目標：1. 社会において看護職者が果たしている役割と機能を理解する。 2. 看護職者が機能を發揮するために必要な要素を理解する。 3. 看護職者がシステムを開発・維持・変革する意義を認める。 4. 看護職者の発達を支援する意義を認める。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	看護職の機能と機能看護学の意義 －本学のカリキュラムにおける機能看護学の位置づけ －機能看護学の定義と目的 －看護教育学領域と看護政策管理学領域 看護教育学とは何か －看護教育学の定義と目的	講義	毎回、学習課題を提示	吉富
	2	看護政策管理学とは何か －社会において看護職が果たしている機能			巴山
	3	看護職者の発達過程 －ライフサイクルと看護職者の発達 －看護職者の発達に必要な要素			吉富
	4	機能看護学が支える看護職の役割 －職業上の役目と役割 －看護職の役割			岩波
	5	看護を提供する基盤となるシステム －システムとは何か －看護を提供する基盤となるシステム			巴山 加藤 北爪
	6	看護職によるシステムの開発・維持・変革 －システムの開発・維持・変革の実際 －社会の変化に対応した看護職の機能の拡大			中里
	7	まとめ －看護職者の発達に必要な要素 －システムの開発・維持・変革を担う看護職者の要件			吉富
評価方法	レポート (100%)				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	舟島なをみ：看護のための人間発達学 第4版，医学書院，2011. 日本看護協会編：新版看護者の基本的責務－定義・概念／基本法／倫理，日本看護協会出版会，2006.				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	可
授業科目名	機能看護学各論 I (看護教育)			科目履修	可
科目番号	N14002	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	1単位 15時間		
科目責任者	吉富美佐江	そ の 他			
担当教員	機能看護学(看護教育)全教員				
授業の概要	看護教育学は、看護学各領域の教育に共通して普遍的に存在する要素を対象として研究を展開する学問であり、この研究成果を活用することにより、看護学生を含むすべての看護職者個々の発達を支援する。また、それを通し、質の高い看護を提供することを目指す。この授業においては、機能看護学の重要な一領域である看護教育学に焦点を当て、看護教育制度や看護学実習の特徴および看護継続教育における学習ニーズや教育プログラムの特徴に関して学習する。さらに、看護教育学研究の意義や研究成果活用の実際を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：看護職者および看護学生の発達支援に向けて看護職者が教育的機能を発揮する意義と方法を学習する。 目標：1. 看護教育学の特徴を理解する。 2. 看護師養成教育、看護学教育の現状と課題を理解する。 3. 看護専門職の教育における主体的学習の意義を確認する。 4. 看護専門職が教育的機能を発揮する必要性を認める。 5. 看護教育学研究の意義と研究成果活用の実際を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	看護教育学の特徴 看護教育学の定義と理念 看護教育学と看護学教育 看護教育学を学習する意義 主体的・自発的学習	講義	毎回、学習課題を提示	吉富
	2	看護師養成教育の現状と課題(1) 看護師養成教育に関わる法的基盤 看護師養成教育の制度上の特徴 社会情勢と看護教育制度			岩波
	3	看護師養成教育の現状と課題(2) 看護基礎教育課程のカリキュラム 大学と専門学校のカリキュラムの相違 大学における看護師養成教育の特徴			岩波
	4	看護専門職と主体的学習(1) 看護師養成教育の歴史的変遷			岩波
	5	看護専門職と主体的学習(2) 教育評価に関する基本的知識 看護専門職に必要な自律的態度と自己評価			岩波
	6	看護専門職が教育的機能を発揮する意義と方法 看護卒後教育の定義と構成 看護継続教育の定義と構成 看護職に求められる教育的機能 看護職の発達と自己学習			吉富
	7	看護教育学研究の意義と研究成果活用の実際 看護教育学研究の目的と意義 看護教育学研究の成果と看護学教育への貢献			吉富
	8	筆記試験			
評価方法	筆記試験(100%) ※試験日時は別途指定する。				
教科書	杉森みど里・舟島なをみ：看護教育学第4版増補版，医学書院，2009.				
参考書 参考文献等	特になし				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	可	
授業科目名	機能看護学各論Ⅱ（看護管理）			科目履修	可	
科目番号	N14003	クラス番号	N1			
授業形式	講義	必修選択区分	必修			
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	1単位 15時間			
科目責任者	加藤栄子	そ の 他				
担当教員	機能看護学（看護政策管理）全教員					
授業の概要	質の高い看護を提供するために人的・物的資源および環境を管理・調整する意義と方法を学習する。看護職者の機能と役割の拡大およびその質の向上をキャリア発達という視点から学習する。また、わが国と諸外国の看護システムの比較検討や CNS 制度の導入・普及に関する諸問題の検討をとおして看護の役割の拡大と看護管理システム構築における人的・物的・経済的資源活用の実際に関して学ぶ。看護職者の満足度調査や業務改善などの研究成果に触れ、看護管理学の研究領域・方法・対象を学習する。					
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：質の高い看護を提供するために人的・物的・財的資源と情報および環境を管理・調整する意義と方法を学習する。 目標：1. 保健医療システムが有効に機能するために組織の成立、存続、発展が重要であることを理解する。 2. 組織の成立、存続、発展にむけた管理（management）の重要性を理解する。 3. 看護職者として組織の成立、存続、発展に主体的に参画することの意義を認める。					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	保健医療システムの目的と機能（1） －保健医療システム －保健医療システムの変遷（近代）	講義	講義中に学習課題を提示	巴山	
	2	保健医療システムの目的と機能（2） －保健医療システムの変遷（現代）				巴山
	3	保健医療システムが有効に機能するための組織 －組織の定義 －組織の成立要件 －組織の構造と機能				北爪
	4	組織の成立、存続、発展のための管理（1） －管理の定義 －管理の要素				加藤
	5	組織の成立、存続、発展のための管理（2） 管理の過程				加藤
	6	組織の成立、存続、発展のための管理（3） －人的・物的・経済的資源および予算の管理				巴山 加藤
	7	看護職者が組織の成立、存続、発展に参画することの意義と課題				北爪 加藤
	8	筆記試験				
評価方法	筆記試験（100%）					
教科書	特になし					
参考書 参考文献等	金子光編：初期の看護行政，日本看護協会出版会，1992. 中西睦子編：看護サービス管理 第3版 医学書院，2007.					
備考	特になし					

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否
授業科目名	機能看護学各論Ⅲ（看護政策）			科目履修	否
科目番号	N14004	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	1単位 15時間		
科目責任者	巴山玉蓮	そ の 他			
担当教員	機能看護学（看護政策管理）全教員				
授業の概要	保健医療制度およびこれらに関連する諸法規に関する理解を前提とし、政策的側面から看護の質を保証するための知識・技術に関して学習する。具体的には、市町村・都道府県等地方自治体などの行政単位における対象の健康保持・増進に向けた看護システム構築や政策的展開に関して学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：その時代その社会に適応した看護システムを創造性豊かに開発・確立するための方法と、その過程において看護職が果たす役割の重要性を学習する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 政策及び政策過程について理解する。 2. 看護に関する政策の歴史と変遷について理解する。 3. 看護職者が政策過程に参画する意義を見出す。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	看護政策を学習する意義	講義	講義中に学習課題を提示	巴山
	2	政策過程に関する基礎知識 －政策 －政策過程			巴山
	3	看護に関する政策の変遷 －診療報酬の改定と看護への影響			加藤
	4	主要な看護に関する政策 －政策の成立背景と今日の課題			巴山 加藤 北爪
	5	政策過程へ参画するための課題：演習（1）	演習		巴山 加藤 北爪
	6	政策過程へ参画するための課題：演習（2）			
	7	政策過程へ参画するための課題：演習（3）			
評価方法	課題レポート（100%）				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	1) 見藤隆子他：看護職者のための政策過程入門，日本看護協会出版会，2007. 2) 池上直己：日本の医療 統制とバランス感覚，J.C. キャンベル，中公新書，2003.				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能	聴講	否			
授業科目名	機能看護学各論Ⅳ（専門職的機能の発達支援）	科目履修	否			
科目番号	N14005	クラス番号	N1			
授業形式	演習	必修選択区分	選択			
開講時期	3年次 前期semester	単 位	1単位 30時間			
科目責任者	吉富美佐江	そ の 他				
担当教員	機能看護学全教員					
授業の概要	看護職者は専門職であり、効果的な実践を展開するために必要な新たな知識・技術・態度を常に自律的に学習し続ける必要がある。また、そのためには、自己教育力を高めることが重要である。この授業においては、小グループによる発見学習演習を通して、機能看護学領域における様々なテーマの焦点化及び問題解決を試み、自己教育力の向上を図る方法を学習する。また、専門職的自律性と自己教育力の関連、看護職が自己教育力を高める重要性に関して理解する。					
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：看護専門職者として自己評価活動を展開する意義を学習し、その基盤となる自己教育力の重要性を学習する。 目標：1. 機能看護学に関わる興味・関心を明確にし、問題解決過程を実施する。 2. テーマの焦点化・問題解決過程を通し、看護職が自己教育力を培う重要性を理解する。					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	授業の目的・目標及び学習方法の理解 －機能看護学各論Ⅳを学ぶ意義 －授業の目的・目標 －機能看護学に関わるテーマの実例 －学習方法	講義	授業終了毎に レポートを 記載し、提出	吉富	
	2	問題解決に向けた文献検索の方法			吉富	
	3	学習グループの形成 －解決したい問題、興味・関心の共通性による グループ形成 －テーマの焦点化	演習		吉富 他 ※受講 者数に 応じて 決定	
	4	グループディスカッション 用語の確認 －自己評価、自己教育力、問題解決過程				
	5	問題解決過程の体験 －テーマの焦点化				
	6	－テーマの決定 －テーマに基づく文献検索				
	7	－文献入手 －文献精読による内容の理解				
	8	－文献検討による問題解決状況の確認 －問題解決過程の自己評価 中間報告の準備				
	9	中間報告 －経過報告と報告内容に対する質疑応答				
	10	学習成果の要約と発表準備 ・問題解決過程の確認と再評価 ・問題解決状況の確認と自己評価 ・発表準備に向けた資料等の作成				
	11					
	12					
	13					
	14					
15	成果発表と質疑応答 －成果発表と発表内容に対する質疑応答	最終レポート				
評価方法	行動目標の達成状況(100%)					
教科書	指定なし					
参考書 参考文献等	講義中に必要に応じて適宜提示する。					
備 考	特になし					

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能	聴講	否
授業科目名	機能看護学各論Ⅴ(実習)	科目履修	否
科目番号	N14006	クラス番号	N1
授業形式	実習	必修選択区分	選択必修
開講時期	4年次 前期semester	単 位	2単位 90時間
科目責任者	巴山玉蓮	そ の 他	
担当教員	機能看護学全教員		
授業の概要	機能看護学概論・各論で学習した内容を統合し、看護職者の機能を維持・拡大するシステムに対して総合的に学習する。行政・臨床・地域・企業・大学などのフィールドにおいて、その実践の特徴を学習し、看護職者の役割と機能を発展させる方法の必要性を理解する。		
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：機能看護学概論・各論で学習した内容を統合し、看護職者の機能を維持・拡大するシステムに対して総合的に学習する。</p> <p>目標<コースA：看護政策管理グループ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療システムの開発・維持・変革における看護職者の役割を理解する。 2. 保健医療システムの開発・維持・変革における看護職者の役割遂行・拡大の重要性を理解する。 3. 目標1, 2の達成に向けてグループという組織の一員として、学習活動を展開する。 4. 看護の機能の発揮に向けて役割を遂行し、システムを開発・維持・変革できる看護職者になるための自己の課題を見出す。 <p>目標<コースB：看護教育グループ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の興味・関心に従い、看護職者が実践する教育的活動を参加観察(参加型)する。 2. 看護職者が教育的機能を発揮する意義を理解する。 3. 教育的機能を発揮できる看護職者になるための自己の課題を見出す。 		
授業の内容と方法	回	コースA	コースB
	1	オリエンテーション・学内演習(1)	オリエンテーション・学内演習(1)
	2	フィールドにおける実習(1)	フィールドにおける実習(1)
	3	フィールドにおける実習(2)	フィールドにおける実習(2)
	4	フィールドにおける実習(3)	フィールドにおける実習(3)
	5	学内演習(2) 中間評価	学内演習(2) 中間評価
	6	フィールドにおける実習(4)	フィールドにおける実習(4)
	7	フィールドにおける実習(5)	フィールドにおける実習(5)
	8	学内演習(3) グループワーク	学内演習(3) グループワーク
	9	成果発表 質疑応答	成果発表 質疑応答
	10	最終評価 レポート提出	最終評価 レポート提出
	<p>【期間】 2週間 予定：平成24年6月25日(月)から7月6日(金)</p> <p>【場所】 コースA：病院, 日本看護協会, 群馬県庁など コースB：病院, 大学, 群馬県看護協会など</p> <p>【時間】 実習場所に応じて設定</p> <p>【教員】 グループの形成状況に応じて担当教員を決定</p> <p>【内容・方法】</p> <p>コースA：看護政策管理の実際に参加観察し、グループメンバーと協力しながら、システムを開発・維持・変革できる看護職者になるための自己の課題を見出す。</p> <p>コースB：自己の興味・関心に従い、看護職者の行動に参加観察(参加型)し、教育的機能を発揮できる看護職者となるための課題を見出す。</p> <p>【事前・事後学習】</p> <p>各コースの目標やフィールドの特徴に応じて、実習に必要な学習課題を提示する。</p>		
評価方法	出席と課題レポート 行動目標の達成状況(100%)		
教科書	指定なし		
参考書 参考文献等	必要に応じて適宜提示する。		
備 考	特になし		

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能		聴講	可	
授業科目名	看護関連法規論		科目履修	可	
科目番号	N14007	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	1単位 15時間		
科目責任者	巴山玉蓮	そ の 他			
担当教員	機能看護学（看護政策管理）全教員				
授業の概要	この授業においては、看護職者の役割と機能およびこれに関わる様々な法の種類・特徴に関する知識を学習する。また、これら諸法規が実践を取り巻く環境にどのように影響し、看護職者の役割と機能を規制・保護するのかを学習し、法的側面から対象の健康問題の解決・回避を目指す重要性を理解する。さらに、これら一連の過程を通して、国民の健康に関わる保健・医療専門職として国家三権としての司法、行政、立法に関しても独自の見解を明らかにし、影響力を持つ必要性についても学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：看護職者の実践に関連する法規を学習し、職業上の法的責任を学習する。 目標：1. 社会システムを規定する法について理解する。 2. 保健医療システムに関連する法律について理解する。 3. 看護専門職者に必要な法律の基礎知識を理解する。 4. 看護職者としての責務を法的にとらえる重要性を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	社会システムと法 －社会システム －法に関する基本的な考え方	講義	講義中に学習課題を提示	巴山
	2	保健医療システムと法律 －保健医療システム －人間の権利やその擁護を保障する法的背景 －保健医療システムに係る法律			巴山
	3	看護職に直接関係する法律（1） －保健師助産師看護師法			北爪
	4	看護職に直接関係する法律（2） －看護師等の人材確保促進に関する法律			北爪
	5	看護職を取り巻く法律（1） －医療提供者の身分、資格を規定する法律 －看護職者が活動する場に関する法律			北爪 加藤
	6	看護職を取り巻く法律（2） －看護の対象を保護する法律 看護業務の拡大に関連する法律（1） －医療事故と法的責任			加藤
	7	看護業務の拡大に関連する法律（2） －新しい法律			加藤
	8	筆記試験			
評価方法	筆記試験（100%） ※試験日時は別途指定する。				
教科書	門脇豊子他：看護法令要覧 平成24年度版，日本看護協会出版会，2012.				
参考書 参考文献等	講義中に必要に応じて適宜提示する。				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能		聴講	可	
授業科目名	看護専門職の役割と機能 I		科目履修	可	
科目番号	N14008	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	1単位 15時間		
科目責任者	原美弥子	そ の 他			
担当教員	原美弥子、加藤栄子、北爪明子				
授業の概要	国内外における看護職者の活動及び過去・現在・未来に亘る役割と機能の変化を学習し、その特徴を理解する。この授業においては、様々な場において活動する看護職者に焦点を当て、その役割と機能の共通性、相違性、多様性を学習する。具体的には、人々が生活する地域を対象に看護活動を展開する看護職者である保健師、学校保健に関わる養護教諭、生命の誕生に関わる助産師等の様々な看護職者の役割や活動をはじめ、看護職者の専門性、様々な役割とその活動の実態を学習する。さらに、諸外国で活躍する様々な看護職者の活動を学習し、看護職者の役割と機能について理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	医療施設や保健所・保健センター・学校における看護職者の活動および過去・現在・未来に亘る役割と機能の変化を学習し、その特徴を理解する。 目標：1. 看護職者の疾病予防、健康の保持・増進における看護活動の役割・機能を学習する。 2. 看護職者の医療施設・地域における看護活動の基盤となる教育的知識・技術について学ぶ。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	看護職者の健康への取り組み 医療施設における看護職者の役割・機能の変化	講義	毎回、学習課題を提示	原 加藤
	2	看護職者の教育的活動(1)：医療施設におけるエキスパート・スペシャリスト(認定看護師・専門看護師等)の教育的活動			加藤
	3	看護職者の教育的活動(2)：医療施設におけるあらゆる健康レベルにかかわる看護職者の疾病予防、健康の保持・増進活動に向けた教育的活動			北爪
	4	看護職者の教育的活動(3)：地域における保健所や保健センターにおける保健師・助産師による疾病予防、健康課題や健康問題の解決に向けた教育的活動			原
	5	看護職者の教育的活動(4)：医療施設・保健センター・学校などの看護師・保健師・養護教諭による疾病予防、健康課題や健康問題の解決に向けた教育的活動			
	6	看護職者を取り巻くコ・メディカルとの協働			加藤
	7	看護職者間の教育的活動における連携 全体のまとめ			原
評 価 方 法	レポート(40%)、課題成果(30%)、出席(30%)から総合的に評価				
教 科 書	指定しない				
参 考 書 参 考 文 献 等	社団法人 日本看護協会 監修 『新版 看護者の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理』(株)日本看護協会出版会 2006. 看護史研究会 『看護学生のための日本看護史』医学書院 2003. 宮坂忠夫ほか 編著 『最新 保健学講座 別巻1 健康教育論』メヂカルフレンド 2006.				
備 考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否
授業科目名	看護専門職の役割と機能Ⅱ-1（総合実習）			科目履修	否
科目番号	N14009	クラス番号	N1		
授業形式	実習		必修選択区分	選択必修	
開講時期	4年次 前期セメスター		単 位	2単位 90時間	
科目責任者	行田智子		そ の 他		
担当教員	生涯発達看護学教員、地域健康看護学教員				
授業の概要	<p>人種・民族・年齢・性別の異なるあらゆる対象に対し、必要に応じて看護を実践する重要性を理解する。また、そのために看護職者が果たす様々な役割と機能を学習する。</p> <p>関心の高い専門領域を選択し、病院や地域などの実践現場において個人または集団を対象とし、個別性に合わせた看護を展開する。これを通して、生涯発達看護学、地域健康看護学における学習成果を統合し、あらゆる対象に対して看護を実践する意義を理解する。</p> <p>また、学生ここの学習過程を共有・統合し、各専門領域において看護職者が果たす役割と機能を理解する。</p>				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：生涯発達看護学、地域健康看護学における学習を統合し、様々な場において生活する人種・民族・年齢・性別の異なるあらゆる対象に対し、必要に応じて看護を実践する重要性を理解する。この過程を通し、対象が持つ健康上の問題の解決ならびに問題発生の回避に向けて看護職者が果たす様々な役割と機能を学習する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの実習経験に基づき、関心のある専門領域を選択する。 2. 選択した専門領域において、クライアントやその家族、他の看護職者、医療職者と相互行為を展開する。 3. 展開した相互行為を通して、各専門領域に応じた看護を展開するために必要な知識・技術・態度を理解する。 4. 展開した相互行為を通して、各専門領域において看護専門職が果たす役割と機能の特徴を考察する。 5. 実習全体を通して、各専門領域においてより質の高い看護を展開するために必要な学習課題を明確にする。 6. 実習全体を通して、看護学に関して、既習の学習内容を基盤として継続的・自律的に学習を深める意義を確認する。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	オリエンテーション・学内演習	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習ガイドライン必読 ・実習フィールドごとに必要な課題を提示 ・実習終了後、フィールドごとにレポートを提示 	生涯発達看護学・地域健康看護学担当教員
	2	学内演習	演習		
	3～8	各フィールドにおける実習	実習		
	9～10	学内演習	演習		
<p>【期間】2週間（平成24年6月～7月）</p> <p>【場所】担当教員が専門に応じて実習場所を決定する。</p> <p>【グループ編成】1グループ3～6名を原則とし、学生の希望を優先しながら調整する。</p> <p>【方法】学生は、これまでの学習経験に基づき、関心の高い専門領域（母胎期、乳幼児期・学童期、思春期・青年期、成人期、老年期の対象にある看護、家庭環境における看護、就労環境における看護など）を自ら選択し、個々の対象や家族、他の看護職者、医療職者と相互行為を展開し、より質の高い看護を展開するために必要な看護職者の役割と機能を学習する。</p>					
評価方法	各担当教員（実習領域）が設定した行動目標の達成状況（100%）				
教科書	各担当教員が提示する。				
参考書 参考文献等	各担当教員が提示する。				
備考	5月中旬にオリエンテーション、6月にフィールド選択と決定の予定				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能		聴講	否	
授業科目名	看護専門職の役割と機能Ⅱ-2 (役割移行実習)		科目履修	否	
科目番号	N14010	クラス番号	N1		
授業形式	実習	必修選択区分	自由		
開講時期	4年次 後期semester	単 位	2単位	90時間	
科目責任者	巴山玉蓮	そ の 他			
担当教員	機能看護学全教員、看護技術学講師、地域健康看護学講師				
授業の概要	看護職者として就業を希望する専門領域と類似したフィールドにおいて看護学実習を行う。保健医療チームメンバーとして看護実践に参加し、これまで学習した基礎的知識・技術・態度の獲得状況を自己評価する。また、職業人としての責務を果たすために今後獲得する必要のある専門的知識・技術・態度を考察する。				
学 科 目 的 学 科 目 標 (評価基準)	<p>目的：学習者である看護学生と職業人である看護職者の役割及び機能の相違について学習し、直面した問題を学術的・自律的に解決する重要性を理解する。</p> <p>目標：1. 看護学生から看護職者への役割移行の特徴を理解する。 2. 選択したフィールドに応じた実習計画を作成する。 3. 保健医療チームメンバーとして看護実践に参加する。 4. 役割移行に伴い直面する問題を学術的・自律的に解決する重要性を認める。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当 受講者数に応じて担当教員を決定
	1	オリエンテーション・学内演習(1)	講義 演習	実習計画の作成・洗練	
	2	実習フィールドにおける看護実践(1)	実習	実習記録の整理 実践の自己評価	
	3	実習フィールドにおける看護実践(2)	実習	実習計画の作成	
	4	学内演習(2)	演習	中間評価 課題の明確化	
	5	実習フィールドにおける看護実践(3)	実習	実習記録の整理	
	6	実習フィールドにおける看護実践(4)	実習	実践の自己評価	
	7	実習フィールドにおける看護実践(5)	実習	実習計画の作成	
	8	学内演習	演習	課題達成状況の確認	
	9	学内演習 レポート提出	演習	学習成果の自己評価 目標達成状況の確認	
	<p>【期間】 2週間 予定：平成25年2月26日(火)から3月8日(金)</p> <p>【場所】 県立心臓血管センター，県立がんセンター，県立精神医療センター，県立小児医療センター，前橋赤十字病院，伊勢崎市民病院，赤城病院，群馬県内の保健福祉事務所，市町村保健センターなど</p> <p>【時間】 実習場所に応じて設定</p> <p>【方法】 学生が選択したフィールドにおいて実習を行う。保健医療チームのメンバーとして看護実践に参加することを通し、看護学生から看護職者への役割移行に伴う課題を克服するための方法を修得する。</p>				
評価方法	行動目標の達成状況(100%)				
教科書	指定なし				
参 考 書 参 考 文 献 等	<p>1. パトリシア・ベナー；井部俊子他訳：ベナー看護論―初心者から達人へ 新訳版，医学書院，2005.</p> <p>2. 日本看護協会：日本看護協会看護業務基準集―2007年改訂版，日本看護協会出版会，2007.</p> <p>3. 筒井孝子：看護量の測定および推定のための方法論に関する研究―看護業務分類コードの作成について，看護管理，7(12)，890-900，1997.</p> <p>4. 森真由美他：新人看護師行動の概念化，看護教育学研究，13(1)，51-64，2004.</p> <p>5. 塚本友栄他：就職後早期に退職した新人看護師の経験に関する研究―就業を継続できた看護師の経験との比較を通して，看護教育学研究，17(1)，22-35，2008.</p>				
備 考	<p>※履修登録期間中に別途オリエンテーションを実施予定</p> <p>※履修登録終了後に実習フィールドを確認・調整予定</p>				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	可
授業科目名	看護学研究概論			科目履修	可
科目番号	N14011	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	1単位 15時間		
科目責任者	吉富美佐江	そ の 他			
担当教員	吉富美佐江 岩波浩美				
授業の概要	学術研究の領域と方法論、看護学に関する研究にはどのようなものがあるか、その特徴を学習する。研究成果の活用には有効な論文を選択するためには、論文全体を読解することが不可欠である。この授業においては、看護学研究の理解、研究論文の読解、研究成果活用に必要な基礎的知識を学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：看護学研究の意義と特徴を学習し、研究成果を実践に活用するための基礎的知識を学習する。</p> <p>目標：1. 看護学研究に用いられる基本的な用語を理解する。 2. 研究の過程を理解し、既存の研究成果を理解するための基礎知識を習得する。 3. 看護学研究の成果を実践に活用するための課題を考察する。 4. 学術的・自律的な問題解決に向けて研究成果を活用する意義を認める。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	看護学研究の特徴 －看護学研究の定義 －看護実践と看護学研究 －研究活動の種類	講義	毎回、学習課題を提示	吉富
	2	文献検索の実際			岩波
	3	研究と倫理			岩波
	4	研究過程と研究論文の構成要素 研究批評と研究成果活用			吉富
	5	看護学研究(1) －質的研究			吉富
	6	看護学研究(2) －量的研究			吉富
	7	研究成果活用の意義と実際 －研究成果活用による看護実践上の問題解決 －研究成果活用による学生・看護職者としての問題解決			吉富
	8	筆記試験			
評価方法	筆記試験(100%)				
教科書	南裕子編：看護における研究，日本看護協会出版会，2008.				
参考書 参考文献等	山崎茂明他：看護研究のための文献検索ガイド 第4版増補版，日本看護協会出版会，2010.				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能		聴講	否	
授業科目名	看護学研究 I (問題解決過程)		科目履修	否	
科目番号	N14012	クラス番号	N1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	4年次 前期 Semester	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	廣瀬規代美	そ の 他			
担当教員	廣瀬規代美、河内美江、樋貝繁香、関根正、狩野太郎、加藤栄子、岩波浩美、北爪明子、田淵祥恵、服部美香、橋本晴美				
授業の概要	この授業においては、小グループ制の授業を展開し、看護実践上の問題解決に向けて看護学研究を検索し、成果を活用するための方法を学習する。学生は、看護学の学習を通して日々感じている問題を明らかにする。また、学習グループを形成し、焦点化したテーマ(問題)に関連する文献検索を通して学術的に解決する過程を体験する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>学科目的:看護実践上の問題解決に向けて看護学研究を検索し、成果を活用するための方法を学習する。</p> <p>学科目標: 1. 問題解決に向けて、看護学研究を検索し、成果を活用するための方法を理解する。</p> <p>2. 看護学の学習を通して感じている問題からグループテーマを焦点化し、看護学研究の成果を活用した問題解決過程を実施する。</p> <p>3. グループ討議・成果発表において主体的に学習活動を展開する。</p> <p>4. 看護学研究の成果を活用した問題解決過程の価値を認める。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1	授業の目的・目標及び学習方法の理解 ①授業科目の位置づけと目的・目標 ②看護学研究の成果を活用した問題解決過程の概要 ③用語の定義 ④関心領域、解決したい問題によるグループ形成	講 義 演 習	①看護学の学習を通じ感じている問題を指定用紙に記載し提出する。 (別途指示)	廣 瀬
	2	文献検索の意義と方法 ①文献検索と文献の活用 ②文献精読と文献カードの整理方法	講 義	②演習と並行し、グループ討議に向け、文献を精読し整理する。	廣 瀬
	3	問題解決過程の体験(グループワーク) ①グループにおける問題の共通性による問題解決に向けたテーマの焦点化・成文化(グループ討議) ②問題解決に向けた文献検索の実際と文献入手 ③文献精読による内容の理解、文献整理 ④問題解決に向けた文献の選択 ⑤選択した看護学研究の共通点・相違点の明確化 ⑥学習成果発表に向けた内容の整理	演 習		廣瀬他各担当教員
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12	学習成果発表の準備(グループワーク) ①学習成果の整理と発表用資料の準備・作成・提出 ②発表に向けた役割の確認と調整	演 習	③演習終了後レポート課題を提出する。 (別途指示)	
	13				
	14	学習成果発表(グループワーク) ①研究成果を活用した問題解決過程の理解 ②発表内容に対する質疑応答			
15					
評価方法	行動目標の達成状況(レポート記載内容含む)80%、出席状況10%、演習参加態度10%				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	南裕子編:看護における研究 日本看護協会出版会 2009 講義中に必要に応じて適宜提示する。講義にて別途資料配布する。				
備 考	本科目は、4月集中科目である。日程は別途提示する。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否
授業科目名	看護学研究Ⅱ (EBP)			科目履修	否
科目番号	N14013	クラス番号	N1		
授業形式	実習	必修選択区分	必修		
開講時期	4年次 後期semester	単 位	4単位	180時間	
科目責任者	小川妙子	そ の 他			
担当教員	看護技術学・機能看護学・生涯発達看護学・地域健康看護学全教員				
授業の概要	看護において研究成果を活用する意義を学習し、看護実践に必要な研究成果を探索・発見し、実践に活用する方法を学習する。関心の高い専門領域を選択し、対象の持つ問題を解決するために研究成果を活用した実践を立案し、病院・地域などの実践現場においてその実践の展開を試みる。また、これら一連の過程を論文としてまとめる。				
学 科 目 的 学 科 目 標 (評価基準)	<p>目的：看護において研究成果を活用する意義を学習し、看護実践に必要な研究成果を探索・発見し、実践に活用する方法を学習する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践を展開するうえで、研究成果の活用（研究的な過程を含む）を通して解決したい問題を明確化し、テーマを決定する。 2. 文献検討を実施し、問題解決に有効な研究成果や看護理論等を探索する。 3. 探索した研究成果を活用し、問題解決に向けた研究成果活用計画書を作成する。 4. 研究成果活用計画書に沿って、データ収集・分析を実施する。 5. 結果を論述し、考察する。 6. 実施した一連の過程を研究論文の形式に則って論述する。 7. 実施した一連の過程を研究発表の形式に則って発表する。 8. 研究成果の活用（研究的な過程を含む）を通して、看護実践上の問題を解決することに意義を見いだす。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	オリエンテーション	講義	課題の探求 行動目標の理解	科目責任者
	2	「研究成果活用計画書の作成」について	講義 領域毎	文献検討 計画書の作成	学生の 関心に 基づき 担当教 員と相 談の上 決定
	3	「倫理的配慮」について	講義 領域毎	必要時、倫理委員 会の審査を受 ける	
	4-6	研究成果活用計画書の作成	演習		
	7-16	研究成果を活用した看護実践 *90時間、2週間程度の研修を含む	実習	看護実践の準備 倫理審査チェッ クリストの確認	
	17-20	データ分析、考察	演習	計画書に沿った 分析、考察	
	21-25	論文作成	演習	規定との照合	
	26-27	抄録、発表原稿の作成	演習	規定との照合 効果的な発表	
	28-29	学習成果発表会における発表と質疑応答	演習 領域毎	他の分野の発表 会への参加	
30	「研究成果を活用する意義」について	演習	行動目標確認 自己評価		
評 価 方 法	行動目標の達成状況 100%				
教 科 書	指定しない				
参 考 書 参 考 文 献 等	「看護学研究概論」「看護学研究Ⅰ」配布資料 ・南裕子編：看護における研究 日本看護協会出版会 等				
備 考	・別途、EBP 実施要項を配布します。主体的な学習が必要不可欠です。				